

烏帽子会会報

2007年秋号 Vol.43



福岡大学病院 新診療棟完成予想図

福岡大学創立75周年記念募金事業

(平成 19 年 6 月 ~ 22 年 3 月)

- 大学首脳人事 2
- 寄付金募集始まる (会長挨拶) 3
- 医学部、病院創立35周年記念事業 10

福岡大学医学部同窓会

大学首脳人事 (関係分・就任は何れも12月1日)

副学長に **瓦 林 達比古 教授** (産科婦人科学 現病院長) 選出される

学 長	衛 藤 卓 也 (商学部)
副 学 長	瓦 林 達比古 (産科婦人科学・現病院長)
医 学 部 長	黒 木 政 秀 (生化学)
福岡大学病院長	内 藤 正 俊 (整形外科学)
福岡大学筑紫病院長	岩 下 明 徳 (筑紫病理部)

● 目 次 ●

目 次

・会長挨拶 福岡大学創立75周年記念募金にあたり	高 木 忠 博	3
・平成18年度評議員会議事録		4
・医学部、病院 創立35周年記念行事予告		10
・第26回医学部同窓会烏帽子会総会報告		11
・研究奨励賞 平成19年度研究奨励賞選考報告	林 英 之	13
受賞論文抄録と受章者のことば		14
・研究奨励賞募集要項		18
・教授就任挨拶 前川教授就任のご挨拶	前 川 隆 文	19
ご 祝 辞	江 下 明 彦	20
ご 祝 辞	島 秀 輝	21
小川教授就任のご挨拶	小 川 厚	22
ご 祝 辞	廣 瀬 伸 一	24
ご 祝 辞	上 村 精 一 郎	24
・教授退任挨拶 七隈とんび回想	今 永 一 成	26
・副医学部長就任挨拶 医学を学ぶと言う誇り	大 平 明 弘	27
・学生対策行事 新入生歓迎会	笠 健 児 朗	28
M4 激励会	竹 下 盛 重	29
・教室・医局紹介 生化学教室のご紹介	衣 笠 哲 史	30
公衆衛生学教室紹介	守 山 正 樹	31
・同窓生交歓(第7回生)	井 上 隆 則	32
・支部だより 第30回北九州支部総会報告	増 田 雄 一	33
筑後支部総会のご報告	甲 斐 保	33
佐世保支部だより	富 田 寿 三	34
・在外研究援助金募集要項		35
・烏帽子会資料		36
・教育職員人事		38
・医局長・医長名簿		39
・編集後記		40

会長挨拶

福岡大学創立 75 周年記念募金にあたり

同窓生各位へご挨拶

烏帽子会 会長 高木 忠博 (1 回生・脳神経外科クリニック高木院長)



雨に濡れた紫陽花の美しい季節となりました。同窓諸兄弟におかれましては健やかにお過ごしのこととお察し申し上げます。

すでに皆様ご承知のとおり、学内におきまし

ては、朔、林両教授に続き、竹下重盛、廣瀬伸一、大慈弥裕之、各先生が主任教授に就任。筑紫病院では内科の浦田教授が副院長に任命され、各々の分野で大活躍されています。また助教授以下のスタッフも卒業生が圧倒的な数となった現状は、まさに福大医学部、病院の評価、イコール卒業生の評価といっても過言ではない状況になりつつあります。唯一残念なことは、ここ 2～3 年の国家試験の結果が最悪の状態を続けている事です。しかし、烏帽子会による外部講師の招聘や、学内烏帽子支部の一新、新教授を含む准教授及び講師十数名による強力な布陣を形成し、国家試験対策他教育指導に著しく貢献。岩崎学部長、瓦林病院長からも高く評価され、更なる協力を求められている現状です。

さて福岡大学 75 周年記念行事の一環として大学病院の改築の計画が具現化され、これに伴う卒業生への寄付募金活動も本年 6 月より 3 年間にわたって本格的におこなわれます。新外来棟、病棟は広いガラス張りの空間をもつモダンなデザインのように、新しい福大及び病院の玄関を飾るにふさわしい斬新な建物になるようです。過去の募金事業と異なる点は我々と最も関係の深い病院そのものの建

築が含まれていることです。我々執行部は募金によって眼に見える建物を建てたいという願いがあり、その結果、新病棟のエントランス横に 300 席のホールを建築して寄付の対象にしようという事とし、総額約 5 億円程度が必要となるようです。残念なことです。烏帽子会館と名付けるには本学で一部異論があるようで、異論の出ないような金額を集めることが先決なのかもしれません。

募金事業には、個々の痛みを生じます。その痛みは、すなわち母校への愛情の証しに他なりません。数多くの会員がより多くの献金をすることにより、今後全ての英知と組織力を活かして、福岡大学の中で強いリーダーシップを発揮し、輝かしい未来を築くための担い手にならなければならない宿命にある医学部にとって、最大の後楯とならねばならないのです。

今、我々烏帽子会員にとってその真価を発揮すべき時がやって参りました。詳細につきましては後日事務局より一般卒業生としての募金要項が郵送される事になるでしょうが、烏帽子会と致しましては、会員一名につき三十万円の応募を期待申し上げております。

医療経営の厳しい時ではありますが、会員諸兄弟の今後益々のご理解とご協力を懇願し、麦秋のご挨拶とさせていただきます。

平成 19 年 6 月

(このご挨拶文は、本年 6 月、同窓会から寄付金募集の時差し上げたものの再掲です)

平成 18 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 19 年 4 月 21 日 16 時
- ◆場所 福岡国際ホール
- ◆出席 評議員：実出席 48、委任出席 33、
欠席 17
支部長(再掲)：出席 13、欠席 6

◇病院長から病院新築について説明

◇経過報告

〈高木会長〉

今年が一番大きなメイン報告は、形成外科学という一つの講座が初めて生まれその主任教授に大慈弥先生がなられた事です。大慈弥先生へ大きな拍手をお願いします。本当によく頑張ってくれました。こちらに来て整形外科の中の一部のセクションからここまで実績を作って立ち上げた事はさすがにすごい卒業生の仲間だと思います。今烏帽子会の組織の中での院内の充実にはすばらしいものがあります。スタッフに卒業生が増えていき国試対策委員会が教授会組織の中で出来ましたところ、その中で主になる人材として我々烏帽子会のメンバーが成っております。これから同窓会活動のテーマを院内のメンバーが出してくれる時代になると思いますのでもっと充実した烏帽子会の活動になってくと思います。

卒業生の子弟入試については 12 人(うち推薦 3 人)でした。過去の最高だった平成 15 年と同数でした。また子弟を我が母校にとの思いから受験生が非常に増えています。支部よりの連絡を戴いた人数でも 58 名。多分連絡が入っていないだけで受験数は実際はもっと多いと思います。その中で 12 人という人数は少ないですが、それだけ福大の入試のハードルが高くなっている証でしょう。全国から学生が集まるようになりました。それは良いことですが、関東や関西から来た子弟は卒業したらすぐに帰ります。福大に残る人数が減ります。学部長に、大学に残る人材ということで先程瓦林病院長も言われてました

地元密着ということを大学側は考えないといけないのではないかと話しています。

昨年からの事業はとにかく国試です。昨年の国試の結果には皆さんのプライドにぐっさりと傷がついたと思います。それを何とかしなければと考え学生の成績を上げることに全力を尽くしました。以前にもお話したように、自治医科大学の河野先生を客員教授という形に持ち上げ、自治医科大学からも講義に来やすいという状況を作りました。又テコムの三苦先生というカリスマ的な国試の先生がきちりサポートする形で国試に挑みました。結果は資料のとおりでかなり中位までなんとかいき、今年一年だけで去年の屈辱からはリカバリーを果たせたと思います。この計画は三年計画で行い、烏帽子会としては 100% を目指して応援していこうと思っております。資料の表には国試に合格していない人数が書いてあります。未合と書いてありますがそれが 40 なんです。他の大学と比較するとダントツ多いんですが、福岡大学は正直な数値を示しており 30 年間で 40 人です。人数はダントツに多いんですが操作関係をしていないため実質の評価ではベスト 3 に入るそうです。ただ表面に出る分みかけが悪い状態です。この 40 人をどうするのか、どう手を出していくのかも烏帽子会の一つのテーマになっていると知っておいていただきたいと思います。

◇議題 1. 平成 18 年度収入支出決算見込み

池田事務局長説明

〔附〕会費納入状況

松本専務理事説明。(筑豊支部設立)

◇議題 2. 平成 19 年度事業計画(案)について

二田常任理事説明 承認

◇議題 3. 平成 19 年度収入支出予算(案)

池田事務局長説明 承認

◇議題 4. 決算評議員会省略の件

臨時評議員会開催の可能性あり。

◇議題 5. 福岡大学創立 75 周年記念寄付募集について

〈重田副会長〉

瓦林先生のお話にありましたように我々同窓会としても1つの念願でありました新病院の建築と同窓会館的なものが何とか建たないだろうかということについて毎年皆さんと相談してきました、昨年も朔教授の方から新病院の説明がありました。大体の概要は皆さんご存知だと思いますがいよいよ6月から募金が始まります。しかし問題が何点かありましてそのことについて若干の説明をしながらご討議をお願いいたします。

今回の募金事業に関して福岡大学がどういう形を採っているかということ、福岡大学創立75周年記念事業の中の1つとして病院の新築案があります。「商学部棟」、「新中央図書館棟」、「福岡大学病院新診療棟」、「附属大濠高等学校・中学校校舎および体育館」の4つの項目についての募金募集という形になっています。この形になりますと我々が目的としております病院の新築に対する募金の意味合いが非常に薄れてしまいます。1つの問題点がそこにあります。これに関して廣瀬教授(医学部)と朔教授(病院)が募金委員のメンバーになられており、募金事業始まって半年になりますが、その間大学側とずっと折衝を続けて来ております。その中で我々が「病院新診療棟の建築に寄付します」という意思表示が出来るようになりました。募集要項が送ってきたらその寄付希望項目にチェックをして出すという仕組みです。このことは医学部、病院両委員の発言で出来た様です。もう1つの問題点は金額の問題です。チェック項目を入れて送金する訳ですが、医学部病院関係者からの位募金があったかその額が解らないと意味がないのです。そこでまた妥協案が出まして、医学部病院関係者に対しては病院側が一括して趣意書を含めて募金要項を送ること

が決まったようです。それに則って同窓会からの趣意書を一緒に同封したらどうかという案が出ています。そうすれば医学部、病院関係者の寄付金額も容易に把握できるようになります。まだ決定ではありません。2月に募金事務局長が大学本部よりみえられて話しをされました。その内容については松本先生より説明をお願いします。

〈松本専務理事〉

財務担当理事の私がおはっきりして欲しかったのは、例えば医学部で何億集まったかということですよ。

烏帽子会館ホールが〇億かかるのでその為に僕らが募金をします。そこは同窓会館ホールだと。集めたお金が形になって欲しい。その為に皆に声をかけると浄財が集まりやすいことから、そうさせてくれないかというのが最初の願いでした。ところがそれは医学部の我が儘なことになる訳です。

全学部で募金をやりますから、医学部だけが幾ら集めたとか、医学部だけでこのホールを造るということは駄目なんですと言う訳です。その折衷案として朔教授が頑張って4つの事業の内あなたは何の為に寄付をしますかの間に対して「病院の建設」に〇をして下さいという訳です。そうするとある程度の総額がわかることになります。この総額はおそらく同窓会の人達や医学部学生の保護者からの金額で、医学系からはおおよそこれくらいの金額が集まるんだなあというフエジーな状態にしてくれないかとの願いが本学にあると思います。それが僕らとは相対する訳です。その間に挟まって学部長、病院長、両委員は非常に困られています。朔教授は出来れば福大医学部病院の職員に関してはまとまった金額を用意してくれたい。それが出来ないだろうかと今本学と交渉中です。僕らも同窓会で幾ら集めて、集めた金額をどのように表現してくれるのかと本当は言いたいのですが、無理な様なので具体的にもっと詰めてやらせてほしいと思っています。

募金事務長が言われたのは「先生方の気持ちは良く理解出来ます。同窓会員にも募集

要項が行きます。保護者にも募金要項は行きますし、大濠高校の出身者にも行きます。そうすると中には重複してしまう人がいてきちんとした統計がとれない」と言われました。出せない事は無いだろうと思いますがその辺りをファジーにしたい様です。この話しを聞いたのは2月です。そして募金開始は6月です。どうしたら良いのか執行部にも腹案はありますが、みなさんから忌憚のない意見を聞かせていただいた上で対応していきたいと思っていますのでよろしくをお願いします。

〈重田〉

先日皆さんにお送りした松本先生が作成してくれた募金趣意書が我々の気持ちです。あれを他学部の人に見せると全く別世界の話しになります。医学部同窓会の熱意は理解できるが他学部から見ると特殊であり、総合大学である福岡大学としては、いちいちそこに合わせて募金活動をするわけにはいかない、というのが事務局の本音だと思います。福岡大学自体が医学部の特殊性を理解してもらうには非常に難しいのではないかと思います。

〈筑後支部 朝倉評議員〉

我々医学部同窓生が寄付したお金は新病棟や同窓会館ホールに使われるということですか？

他に回るということですか？

〈松本〉

病院だけでも百億のお金を使います。僕らが3億集めても薄い部分に成ります。我々の浄財は病院の為に濃ゆく入ったという認識でいい訳ですが、3億のところ5億集めたからアネックスホールが大きくなるわけではありません。設計も決まり値段も決まっています。ただある程度の金額が集まればホールの名前を烏帽子会館ホールと付けてもらえるかもしれないし、同窓会室を造ることも可能かもしれません。約束事ではなく非常にファジーです。

例えば300億かけてこの事業をしたら福大は300億出して造ります。ただそれに合わせて募金も下さいねということです。ということで大学側がプールすることと同じなんです。僕らがたくさん集めても大きな病院が出

来るわけではないです。そこが非常にファジーなんです。

〈重田〉

今回の募金活動に関しては外部的(福岡大学募金事務室)には、我々の熱意に対してしっかり受け止める体制が無く、非常に面白い気持ちです。単科の医科大学であればこういう場合簡単なのでしょうが、総合大学となると、いまや医学部病院の予算が大学全体予算の半分を占める様になりましても、医学部といえども所詮単なる一学部には過ぎないわけで、ましてその学部の同窓会がいかなる熱意を持って活動しても、福岡大学の中で普遍的なものにならないことは残念ではありますが。しかしこれはあくまで外部的な問題です。内部的には病院長を何故わざわざ呼んだかと言うと病院長は我々に対してしっかり頭を下げています。協力がなければ新病棟の建設はないと言われていきますので内部的には病院関係者と我々の間には何も問題も無いです。おそらく七月の総会には朔教授が皆さんへお願いをしたいと思います。ただ外部的には福岡大学の中で我々の意志は通用してないのが事実です。

六月一日から募金が始まりますので皆さんと相談しながら募金の額について話し合いをした方がいいかなと思っています。ちなみにアネックスホールと言いまして同窓会館に近い形で持って行こうとしている建物ですがその建設費用は6億の予定です。だいたいの腹案としては募金事業で6億の半分の3億位を目標にしたらどうだろうかというのが朔教授を始め病院側の腹案のようです。

〈坂本北九州支部長〉

この件は福大の中での今後の医学部の存在観を出す、又は行き方を示す非常に大きなポイントになると思います。卒業生が20万人居るとのことですからその中で医学部の卒業生が約3千人。絶対数は少ないですが、募金の金額割合は後から「この位しか集まらなかったんか」と言われなように恥ずかしくない数字を残すことが大事だと思います。絶対数は少ないですから全体の中での金額も大し

たことはないかもしれませんが、募金の中で卒業生の占める割合は非常に大きな力になると思います。評議員会の気持ちは早速私達が支部に戻って支部の皆さんへこの熱い時期に伝えたいと思います。やはり総額はこれだけ集めたと物差しになると思います。行動を起こさないと結果は出ないと思いますのでいかに行動を起こすか、強い意志表明を評議員会で決定していただき支部に戻って一人一人を説得したいと思っています。

〈高木〉

有信会に出てみて初めて解りましたが有信会は20万人と数は非常に多いのですが、福大自体が同窓会に対する見方と言いますか、いろんな事に参加して感じるのはいさしやりであることを拒否する面があります。その反面協力や寄付を言ってくるのですが、積極的に参加することに関しては受け入れない体質があります。その中で我々医学部のように病院の為、我が医学部の為に粉骨砕身協力をする意志を持った学部の気持ちを大学の担当者に話しても、それは医学部の一つの物の考え方なんだ、それは無理でございしょ、他の学部ではとおりませんばいという壁があります。我々は病院の為に寄付するんなら頑張っ出すよ、出した額が確かに目的に使われたとちゃんと大学側が言ってくれると「どーぞ、頑張ってください」と言う気持ちで終わるのですが、4つの事業が存在し大きなプールに入れるんですけどお札には名札が付いていないわけですから解らなくされてしまう事が心配です。そこをなんとか防ごうということで朔教授と瓦林病院長の案がある訳です。寄付を頼む方はその浄財の方向をきちっと報告する義務があると思いますし、大学との整合性がついていないのが難しいところです。

僕はちょっと違う視点で見ているのですが、今度の寄付は今大学の中で頑張っている仲間達への1つの応援歌の意味も含まれていると思っています。

〈佐世保支部久保評議員〉

富田先生と佐世保の有信会にも出てますが、他の学部の人達は熱い母校心など僕らが

持っている感覚とは離れているところがあります。田舎の町において同じ卒業生やけん一緒に集まって飲もうかという感じで集まっています。久留米大学などは開業医の場合500万、100万、50万単位でだしよっしやっただすたい。おいたちも病院をこれで建ててくれるなら20万位出そうという人もいらっしやるでしょう。だけどこれなら2~3万円でもよかとかねという気持ちも出るでしょう。例えば医学部で恥ずかしくなかつた額で集める上限の金額を決めて一部を寄付しておいて残りは同窓会に寄付とかいうことはできんとでしよう?これに寄付してもはつきりせんですもんね。医学部でポンと集むんならおいたちが育った所を建て替えるなら法人で出しても個人で出しても50万位出そうかと思うと思うんですね。朝倉先生が言わっしやーごところがんして集めたっちゃ、他所が1万出すなら3倍くらい出しときゃかっかつかんじゃろかぐらい思うし、そんならいしか支部会では説明できんぢやなかですかね。

〈松本〉

仰るとおりです。そのとおり僕は感じてますので憤慨したんです。そんなことで安い寄付金で済まそうとされるのか?学部長や病院長に対してもどうして我々にそこまでしか言ってもらえないのかと思いました。そこで僕は思い直したんです。やはり陰の力と言いますか、無言の圧力と言いますか、それを学部長も病院長も求めてるんだらうと思うんです。これはもっと難しいことですが、今朔教授を中心に母校出身者の教授がどんどん増えています。彼らが中心になって福岡大学病院は前に進んで行くんです。その後ろ盾になるのが我々です。近い将来瓦林先生も仰ったけど、病院と医学部が福大の中心的イニシアチブをとってリードしていかざるを得ないと。今丁度せめぎ合いなんですね。本学の方がそれを恐れているんです。僕らはどういう態度で臨むかと言うと戦う態度ではなくて無言の圧力しかないんです。無言の圧力が何かと言うと金額なんです。2~3万じゃ効果なしということなんです。薬学部の会館を建て替えるのに2億集めようという掛け声でした。ところが集まっ

たのは1億2千万程度なんです。我々はそれでは恥ずかしいと思います。我々は餌も何もないけどギルドとしての強さを明らかに突き進むチーム力を出さないかんのではないのでしょうか?3億というのは計算がしやすいんです。我々卒業生3千人です。そのうちの1千人が10年目の先生ですから除外して、残りの2千人が1人10万円払ったら2億なんです。本部が今貯蓄がありますので5千万位ポンと払うとします。いきなり医学部同窓会から5千万払った!と、どきっとしますね。これがまず無言の圧力。残りの2億を1人10万として集める。あと僅かに残った5千万をどうするか?10万円だったら集められんこともない。随分前に僕は30万という話しをしました。他所の大学では大概30万円なんです。それは建て替えが多いですね。今回は外来棟ですから10万円位で考えられます。病院長の説明の中にもありましたが、地図で示されたのは、福岡市内と地域医療連携が取れる地域の方はもう少し出して下さいねという意味だと思われま

〈筑紫支部 帆足評議員〉

確認したいのですが、僕らに寄付が来るのは医学部か同窓会かは解りませんが強い要望書が来るんでしょう? その同窓会が出す趣意書がインパクトのあるものじゃないと3億どころか1億も集まらないような気がするんです。4つの事業があると他のとこの為は何で金を…という事になります。冷静に考えると総費用300億の中の募金目標額が20億だから実際に何が出来る出来ないのとかの問題ではないですよ。3億集めようが5億集めようが。先生が言われるように力を見せないといけん訳ですから、他学部からみたら掟破りかもしれないけど医者の力を見せちゃろうという様な事を強く書かないと集まらないような気がします。まして会費を見ても半分位は出してないんですよ、そげな人が寄付するとはあまり思えないという感じもしますし、2千人が×10万円もするとは思えないです。だから卒業生として力を見せるチャンスやと、これを本部に示す初めてで最後のチャンスかもしれないという強いメッセージを送っていただきたいと

思います。

〈福岡支部 詠田評議員〉

この寄付金募集要項は本学が作成したものが卒業生父兄に送られる訳ですよ。この中の銘板掲載「個人5万円以上、法人百100万円以上」感謝状に関しては「個人100万円以上、法人500万円以上」となっています。20万人の福大同窓会会員がいるんだったら幾ら医学部で集まっても企業には勝てないと思います。企業だったら500万円、1000万円の募金を出して来るころはあると思います。福大の同窓会の強さはそこにあると思います。医学部同窓会理事会の方が1人個人で10万円以上出してくれ、チェックをつけてくれと言ったって企業には勝てないと思うんです。医学部がバックアップをするという趣旨に関しては大賛成です。方法論として個人で出していくよりも個人は自由に1万位出していいと思います。それと別に例えば支部別に集めて100万円以上の単位で出すという形にして医学部同窓会100万円以上を作ってその数を多くしていった方が本学の中で医学部の存在は目立つんじゃないかなと思います。理事会の方では方法論は考えてあると思いますが、500万円以上の寄付をしてくる企業以上に目立つようにしなければいけないだろうと思います。大学の強さはそこにあるわけで医者の個人個人の生活レベルは高かったとしても企業としては医者はやはり弱いと思います。皆で集まって一企業に勝てるような募金の出し方が重要だと思います。支部単位で計算してみると例えば福岡支部200人の会員が居て20万円ずつ集めて4000万円になります。そういう額で持って行ったらとても目立つんじゃないかなと思います。

〈重田〉

内部的には問題は無いわけですよ。外部的にどうアピールしていくかということですよ。アネックスホールには10万円以上の人の名前を載せようという案もでていて、ほぼそうなると思います。だから同窓会としてもある一定の額を出した人は銘板に名前が載るとということも内部的な問題なんです。

〈野田宮崎支部長〉

以前も寄付の事があり基本的には全体の額から見るとちょびっとなんですが、各学部で何%が寄付したかという%テージを大学側としては見てたと思います。今、年会費を集めてますね、1万円なら結構集まって来るわけです。%テージを出すためには後1万円を上乗せして来年の年会費を2万円にしてもらって集め、相当な%テージを上げてそれを最低として持って行く。更にプラスとしてもっと出す人が出していく形で2段階方式をすると、%テージは上がるは金額は上がるという形にすると、外部的にもアピール出来るようになるんじゃないかと思います。後は個人的に幾ら出すかの問題になります。

〈松本〉

今のお二人の話はどちらかと言うと支部でまとめて少しまとめた金を作ったらどうかという話ですよね。各支部で競って集めていただいて（笑）総額は支部にお任せして、その金額を本部に入れていただき本部はそれぞれを全部まとめて出すという考えもあります。それも1つの方法論としてあると思います。追加発言しますが個人が5万円以上寄付した場合は銅板に名前を刻むと瓦林先生がずーと言われてます。ホールの壁にずーと銅板を作って刻み込むだろうと思います。5万円以上なら間違いなく個人名が付くようになるだろうと思います。

100万円以上なら法人の名前も付くと。そこに数多くの医学部の卒業生が載ってくれたらいいのですが、その時に医学部の文字を入れられますかとか、それから病院が出す機関誌がありますが、あれに募金者名が載ります。それに医学部と付けてくれないかという交渉をしていますがはっきりした返事はないです。

支部という集め方が1つありましたが他にありませんでしょうか？

〈鬼木大分支部長〉

インパクト論としては良いと思いますが、支部で集めた場合には額が高くなりますと減免措置を受けたりという事があり支部で徴収し

た場合に支部単位では減免措置は出来ないと思いますので広域法人に入らざるを得ないと思います。まとめて幾らと広域法人に入れて減免を受ける場合は各個人において発生してきますので合法的に可能かどうか問題でしょう。

〈松本〉

全て少額から高額に到るまで大学指定の振込用紙なら減免処置が可能です。支部で総額を確認して報告してくればそれが表に出てくる可能性はあります。実際は個人的に募金されたんですが支部の総額が持ち寄られて医学部がそれを発表することは可能です。その作業を支部でしていただくことと確実な数として金額として表に出てきます。

〈重田〉

時間が来てしまいました。食事をしながらこのことに関して意見を是非お聞かせ下さい。時間がなかったものですから支部の意見を聞いてませんので是非意見をお願いします。そして良い方向に持って行きたいと思っております。最後に中心的活動になるだろうと思います福岡支部長より一言お願いします。

〈権藤福岡支部長〉

これは一番の地元である福岡支部が頑張らんといかんことかなと思ひながら考えております。一つは支部という方法も考えましたが、鬼木先生が言われたように個人個人の税法上のこともありますので難しいところもあるかなと思います。私個人的な考え方ですが福岡支部とすれば他大学の例をみても一人30万円がスタンダードになっているようで、九大の例を見ると3年計画で30万円出したと。それで50%をきっています。福岡支部は30万円。福大から距離があれば気持的にも差が出ると思いますので10万円単位20万円単位とか各支部で考えてやって戴いてもいいかなと思っています。

坂本先生も言われた様に一大チャンスだと思います。福大医学部をバックに持つ医学部の教授、その教授はこれだけの力を持っていると。医学部の教授が何かし始めた時に医学部の同窓会員がこれだけバックアップすることが出来るんだという実績を作るチャンスだ

と思います。今なっている正教授はいずれ学部長、病院長になっていくと思います。その時に暗黙の後ろ楯がこれだけある!というのを病院の中で示す大きなチャンスだろうと思います。この問題に関して一番良いのはアネックスホールと言わずに同窓会館というふうに造ってもらえれば何も問題もないです。同窓会館を造るから皆お金を出そうと言えば内部の問題で話しは着くことです。福岡大学は総合大学です。総合大学は一つの学部が目立つのは困るというのが一番の問題なんで、それだけを理解してくればこういう風に難しくなっている事がどこでもお話出来ると思います。私も福岡支部内で一人30万円お願いと頑張りますので他の支部の先生方も是非頑張ってください。それと帆足先生が言われたようにインパクトのある文章をお願いするのが1つ。朝倉先生が言われたように大学トータルの問題なのでそれが本当に使われたかどうかははっきり解りません。それが烏帽子ホ

ールとかの名前がつけばはっきり俺たちが出したんだよとの可能性もあります。朔先生に頑張ってもらって大学側と折り合いを…と思っています。

〈重田〉

非常に総括的に話しをありがとうございました。福岡支部の決意が非常に大事だと思いますのでお願いしときます。

我々の気持も皆さんの気持ちも多分同じだと思います。その部分を一つ一つ担保に置きながら物事を進めて行きたいと思います。病院の動きもありますし、銘板の問題、チェックも問題も100%間違いないという問題ではないです。いまからタイムスケジュール上ずっと進んで行くと思いますので、皆さんとの約束事を担保されるようなら、支部の意見、募金の方法や額などを集約しておいていただいて、総会前の評議員会を臨時に開く必要があると思っています。ご了解いただけますでしょうか?ではお疲れ様でした。

医学部、病院 創立 35 周年記念行事予告

来年は医学部創立36周年、病院35周年、同窓会26周年の記念すべき年に当たります。時恰も大学創立75周年行事期間のさ中でもあり、学部、病院、同窓会協議の上これを大学の援助を受けた記念行事として華やかに実行することになり、第26回烏帽子会総会でもその了解を得ました。

下記は目下の案ですが本番も大差は無いと思われまのでここに予告します。

【主催】 福岡大学医学部、福岡大学病院、福岡大学医学部同窓会烏帽子会

【日時】 平成20年7月12日(土) 15時30分

【場所】 エルガーラホール(福岡市中央区天神1-4-2)

【行事】

15:30 第27回福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会 エルガーラ中ホール

16:00 スライドショー(創立35周年の歩み)《一般入場可》 エルガーラ大ホール

16:30 公開講座「命の大切さを考える-医学と医療と社会への貢献」

演者 聖路加国際病院理事長 日野原重明先生

(日野原先生、教員、学生と共に 福岡大学の社会への貢献について討論)

《一般入場可》 エルガーラ大ホール

18:30 祝賀会 福岡国際ホール(福岡市中央区天神1-4-1)

会費 5,000円

総会報告

第26回医学部同窓会烏帽子会総会報告

実行委員長 坂田 俊文 (10回生・耳鼻咽喉科学)



残暑の候、皆様にはますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、去る平成19年7月14日(土)、第26回福岡大学医学部同窓会総会が開催されました。台風4号の影響で予

定の参加人数を下回りましたが、現役学生の参加もあって、にぎやかな会を催すことができました。これも、同窓会長を始めとする諸先輩方や事務局のご指導、会員有志のご参加があったればこそと、実行委員を代表して深く感謝致します。

私達10回生にとっては、卒業初となる大規模な同窓会であり、20年ぶりの再会に感慨もひとしおでした。思えば昨年8月に実行委員会のキックオフミーティングを行ってから、あっという間の1年でした。この間、会の企

画構成をはじめ、同窓生へのインフォメーション、寄付金の募集と、実行委員の地道な活動が続きました。幸運にも、会の中心的プログラムである、講演や懇親会の余興は、全てmade in FUKUOKA UNIV.で賄えたので、手作り感のある会に仕立てることができました。忙しい中、講演準備をしてくれた中村信之君、余興を盛り立ててくれた現役生の諸君に改めて感謝したいと思います。また、司会進行の武末君や宿里さん、座長の深川さんは学生時代からの役回りで、20年ぶりの今回も期待通りの能力を発揮してくれました。実行委員会の御意見番として尽力してくれた永田治さんも同様です。この文面には書ききれない程の顔が浮かんでできますが、実行委員の方々も時間を割いて気持ちよく手伝ってくれたことを申し添えたいと思います。このようにして振り返ってみると、20年を経た現在でも、学生時代と同じテンションで力を結集できたことに感謝せずにはおれません。そしてこの力こそ10回生の財産なのだと思います。これを機に、今後も10回生の交流がますます活発になることを祈りたいと思います。



講演 中村 信之 講師

腎移植を通じて世の中から
学んだこと、感じたこと



司会者 武末先生

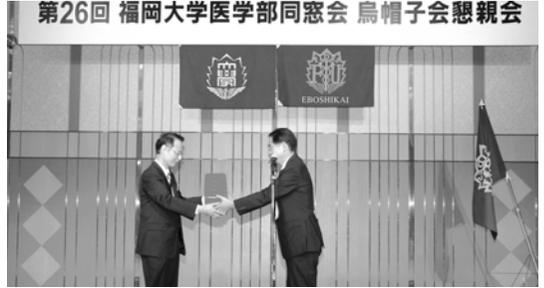


岩崎医学部長

第26回 福岡大学医学部同窓会 烏帽子会懇親会



浴衣姿の 20 回生



大慈弥教授に主任教授就任記念品贈呈



宴



学生も参加



烏帽子会賞授与



幹事の引き継ぎ



校歌斉唱



万歳三唱

研究奨励賞

平成 19 年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 林 英 之 (1 回生・眼科学教授)

今年度、烏帽子会研究奨励賞は例年になく豊作でいずれの応募も甲乙つけ難く、おのずから選考も長時間の激論となりました。

結果として異例ながら個々の優劣を争うよりも、一定の基準を超えた応募の方全員に奨励賞を贈呈することとなり、総勢6名という多数の方が受賞の運びとなりました。そのため1件ごとの副賞賞金を減額する案も出されさらに議論が続きました。

しかし、当研究奨励賞の本来の主旨は学術研究に励む同窓生の研究費用の不足を補い、あるいは学問的業績をあげたものを顕彰し、

さらなる研究の原資の一部を贈与し、もって学問への同窓生の寄与を応援することにある以上、一定以上の金額を贈与するのは当然であろうという観点から、選考委員長から委員の皆様に一任いただいた上で、執行部に予算増額をお願いしたところ、直ちに決裁されました。御快諾下さった高木会長および執行部の皆様、ならびに会員各位に紙面を借りて深謝いたします。

受賞者多数にわたる都合上、受賞された方についての個々の説明は控え以下に一覧を示します。



左より／重田(副会長)、梅田、上田、蒔本、高木(会長)、河村、大慈弥(三原の代理)、岩田(北島の代理)、朔(副会長)

受賞論文抄録と受章者のことば

平成 19 年度 受章者名簿

福岡大学医学部心臓・血管内科学	福大助教	河 村	彰 (17 回生)
東京大学形成外科・美容外科	助手・教官	三 原	誠 (25 回生)
福岡大学医学部消化器内科学	福大助手	上 田 秀 一	(23 回生)
福岡大学病院循環器内科	福大助手	北 島	研 (21 回生)
福岡大学病院 眼科	福大助教	梅 田 尚 靖	(18 回生)
済生会二日市病院呼吸器外科	医 長	蒔 本 好 史	(19 回生)

合成 HDL の多面的効果～炎症調節シグナリングに及ぼす影響 [計画]

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助教 河 村 彰 (17 回生)

河村 彰氏のことば

この度は名誉な賞を頂き有難うございます。

私は 17 回生で、接着分子・ケモカインと冠動脈硬化の研究で学位を頂いた後、ドイツへ留学させて頂き、アポ E と NF κ B シグナリングについての研究を行いました。帰国後もこれまでの研究内容から、脂質代謝とシグナルについての興味を深めて参りました。臨床の場でメタボリック症候群の危

険性が叫ばれている昨今、合成 HDL を知るに至り、その機序をシグナルの面から解明したい、と思うようになりました。本研究に際し奨励賞を頂き、感謝の気持ちと、同窓の諸先生方に支えられているのだ、という心強い気持ちで一杯です。本研究を完遂する事で、微力ながら同窓会発展に寄与できればと考えております。

超微小血管吻合技術を用いた卵巣移植による妊孕性獲得の実験 [計画]

東京大学形成外科・美容外科 助手 三 原 誠 (25 回生)

三原 誠氏のことば

高木会長、推薦頂いた大慈弥先生、福大の先輩方、そして烏帽子会スタッフの方々、本当にありがとうございました。研究は始まったばかりなので、内容を説明させて頂きます。来年には結果を出して、「喜びの言葉」として報告します。(研究内容) 小児癌患者に対し、抗癌剤治療、放射線療法は治療のために無くてはならない治療法である。し

かし、副作用として精巣・卵巣機能(内分泌機能・妊孕性)の低下を高率にもたらす。血管吻合を用いた卵巣移植・卵巣臓器保存法を組み合わせることで、小児癌患者の妊孕性温存の柱になることが予想できる。これは、超微小血管吻合という特殊技術を持つ形成外科領域より、産婦人科・内科領域への提案である。

肝癌細胞で誘導される血管新生の Gefitinib による阻害と機序 (臨床応用への基礎的検討)

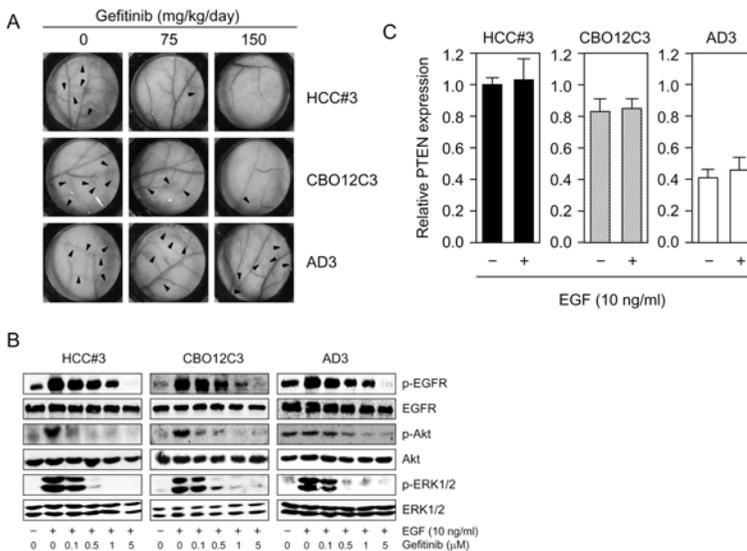
福岡大学医学部消化器内科学 福大助手 上田 秀一 (23 回生)

肝細胞癌は血管新生に富んだ腫瘍である。一方、EGF レセプターの標的とした分子標的薬剤 Gefitinib (イレッサ) は EGFR シグナルを阻害することで、癌増殖や転移血管新生を抑制する。肝細胞癌での EGFR の発現は 65～80% と決して低くなく EGFR およびその下流のシグナルが、肝癌の増殖、生存、転移等に大きく関わっていることが示唆される。

Gefitinib 治療によって腫瘍血管新生がしばしば抑制されたという臨床報告があるが、そのメカニズムについてははっきりしていない。

様々な癌細胞株で EGF や TGF α により VEGF や IL-8 といった血管新生因子の産生増加が観察されているが、今回の実験ではマウス肝癌細胞を用いて癌が誘導する血管新生因子 (CXCL1, VEGF) 産生能と Gefitinib の阻害効果と分子機序について検討した。in vivo において血管新生が Gefitinib によって阻害されなかった肝癌細胞 (図 A) は、in vitro において Akt が恒常的にリン酸化しており (図 B)、さらに PIP3 の脱リン酸化酵素である PTEN の発現レベルの低下を優位に認めた (図 C)。

Gefitinib による抗腫瘍効果に癌細胞側の因子として EGFR 遺伝子のエクソン 18～21 の mutation、EGFR 遺伝子増幅やコピー数の増加が関与しているとの報告があるが、この研究から新たに肝癌細胞によって誘導される血管新生とイレッサによる抗血管新生阻害効果には EGFR 下流の PTEN/Akt シグナルを介した血管新生促進因子の発現が強く関与していることが示唆された。



上田秀一氏のことば

今回、平成 19 年度研究奨励賞を頂き大変感謝しております。賞を頂いた研究論文は、私が大学院生時代に行った仕事です。肝臓癌に対して有効な治療薬が無いものかというのがこの研究の最初のテーマでした。その頃、非小細胞性肺癌に初めて使われた分子標的薬剤が、イレッサでした。イレッサは、抗腫瘍作用のみならず抗血管新生作

用もあるという論文が、2002 年に Cancer Res に掲載された事がきっかけで、その論文が投稿された九州大学大学院医化学講座に研究生として行かせて頂きました。それから 3 年間みっちり基礎研究を学ばせてもらい、時には挫けそうになりましたが、色々な方の力をお借りして出来上がった論文です。これからもこの研究をバネにして肝臓癌研究に勤しみたいと思っております。

アデノ随伴ウイルス 7, 8 型を用いた肝臓へのヒトアポ E 遺伝子導入によるアポ E 欠損マウスでの動脈硬化の完全阻害

福岡大学病院循環器内科 助手 北 島 研 (21 回生)

アポリポ蛋白 E (アポ E) は動脈硬化進展抑制の重要な因子であり、アポ E 欠損マウスでは、通常飼料による飼育でも著しい高コレステロール血症と動脈硬化を認める。これまでアポ E 遺伝子を短期的に発現させ動脈硬化の減少を認めた報告はあったが、長期的に肝臓由来のみのアポ E を発現させた報告は無く、投与法は開腹手術が必要な門脈内投与が主流であった。長期的な発現が可能なウイルスベクターとしてアデノ随伴ウイルス (AAV) 2 型が知られているが、発現量の低値が課題であった。そこで AAV2 型をベースとして改良型の AAV7, 8 型を作成し、アポ E 遺伝子を組み込み、肝臓特異的プロモーターと共にアポ E 欠損マウスに投与すると血清脂質改善と動脈硬化の抑制が期待できると考えた。実験的にコントロール遺伝子を組み込んだ AAV8 型と共に、通常飼料飼育のアポ E 欠損マウスに対して、手術の必要の無い尾静脈より 1 回のみ投与したところ、投与 4 週間後には、コントロール

遺伝子群では血清脂質の変化は無く、アポ E 遺伝子群でも AAV2 型では感度以下のアポ E 発現と血清コレステロール値のわずかな低下が認められたただけであった。一方、AAV7, 8 型では、ともにヒトアポ E の血清値はヒト正常値の 2 倍に到達し、総コレステロール値は野生型と同じ正常値まで有意に減少し、かつ 1 年間の経過観察中、正常値を保ち続けていた。ウイルス投与 1 年後に解剖を行ったところ、AAV7, 8 型での肝臓でのアポ E の発現、および大動脈における動脈硬化阻害は、コントロール遺伝子群、および AAV2 型投与群のマウスで確認された所見より明瞭なものであり、特に動脈硬化は完全抑制されていた。結論として、ヒトアポ E 遺伝子を組み込んだ AAV7, 8 型のアポ E 欠損マウスに対する単回の静脈注射は、恒常的なアポ E 発現により血清脂質値正常化と完全な動脈硬化抑制を可能とし、今後の遺伝子治療への応用が期待される。

北島 研氏のことば

研究奨励賞を受賞させていただき誠にありがとうございました。同窓会総会での受賞式は当日の台風 4 号による交通事情のため残念ながら出席は叶いませんでしたが、名誉ある賞を頂き大変嬉しく思い、これからの研究への励みになっております。受賞論文は、遺伝子治療という臨床では未だ確立できていない厳しい分野ではありますが、今後の

研究の発展のきっかけとなり、またこれからも微力ながら福岡大学医学部にお力添えできる足掛かりになればと考えております。末尾になりましたが、この研究を行った米国留学先を御紹介下さった循環器内科の朔啓二郎教授、支援いただいた教室の皆様、そして御選考頂いた烏帽子会の皆様に心より感謝を申し上げます。

$\alpha 5 \beta 1$ インテグリンアンタゴニスト全身投与における脈絡膜血管新生の抑制及び退縮効果 [論文]

福岡大学病院 眼科 福大助教 梅 田 尚 靖 (18 回生)

【目的】インテグリン $\alpha 5 \beta 1$ は血管新生の形成に重要な役割を果たしている。しかし眼内血管新生での関与については明らかでない。今回、我々は脈絡膜血管新生モデルにおけるインテグリン $\alpha 5 \beta 1$ の局在及び $\alpha 5 \beta 1$ アンタゴニストの血管新生抑制効果について検討した。

【方法】レーザー脈絡膜血管新生モデルマウスにおけるインテグリン $\alpha 5$ サブユニットの局在を免疫組織学的に検索した。同モデルマウスに $\alpha 5 \beta 1$ アンタゴニストである JSM6427 を浸透圧ポンプ皮下埋め込みあるいは硝子体内注射により投与し脈絡膜フラットマウントにおける新生血管を定量した。

【結果】脈絡膜血管新生モデルの新生血管に α

$5 \beta 1$ の選択的な局在を認めた。浸透圧ポンプにより投与された 1.5 あるいは 10 μ g/h JSM6427 は脈絡膜血管新生を有意に抑制した。硝子体注射での眼局所投与では脈絡膜血管新生の大きさに有意差を認めなかった。また、レーザー施行 7 日後より 10 μ g/h JSM6427 を含む浸透圧ポンプを皮下に埋め込まれたマウスにおいて新生血管中の血管細胞に TUNEL 陽性を認め、埋め込み 7 日後には対照と比較し有意に新生血管の退縮が認められた。

【結論】インテグリン $\alpha 5 \beta 1$ は脈絡膜血管新生の発育、維持に寄与しており今後の治療標的にならうことが示唆された。

梅田尚靖氏のことば

本日は思いかけず同窓会研究奨励賞を受賞することになりまして、選考にあられた先生並びに同窓会会員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

今からもう 4 年前になりますが、林教授の御厚意によりアメリカの東海岸のボルチモアにあります Johns Hopkins 大学への留学の機会を与えていただき 2 年 4 ヶ月の留学生活を送らせていただきました。

留学中は主に眼内血管新生特に治療についての研究を行い、その成果に対し今回このような栄誉な賞を受けることができ大変光栄に存じます。

昨今の医療制度改革に伴う弊害として基礎医学を志す研究者が少なくなり今後の我が国の医学の進歩に支障を来しかねない状況になってきていますが、今後も細々ながら研究が続けられればと思っています。ありがとうございます。

微少乳頭状増殖パターン：混合型組織像（細気管支肺胞上皮癌＋浸潤癌，野口 Type C）を呈する小型末梢肺腺癌（ ≤ 2 cm）における予後不良因子．[論文]

済生会二日市病院呼吸器外科 医長 蒔本好史 (19 回生)

（背景・目的）近年の画像診断技術の進歩により、2cm 以下の小型肺腺癌症例が増加してきており、さまざまな臨床病理学的検討がなされている。野口分類は予後とよく相関し有用な分類とされている。しかしその中で 6-7 割と多数を占める野口 C は、初期浸潤癌から高度浸潤癌まで含まれ予後に幅があり、その細分類が望まれる。そこで今回、最近肺腺癌でも注目されてきている Micro-papillary pattern (MPP) を小型肺腺癌 122 症例で評価し、野口 C の細分類を試みた。

（対象・方法）1993-2002 年に当院第 2 外科で手

術を施行した 2cm 以下の肺腺癌症例 122 例。MPP は腫瘍最大断面の H&E 染色標本において、10% 未満を陰性、10% 以上を陽性とした。全例野口分類に従って分類した。

（結果）122 例の野口分類は A: 3, B: 11, C: 85, D: 20, F: 3 であり、MPP は陰性: 55, 陽性: 67 であった。野口 A と B は全例 MPP 陰性で、他方 C: 68%, D: 24%, F: 100% が MPP 陽性であった。MPP 陽性群と陰性群では、年齢、性差、腫瘍径で有意差は認めず、リンパ節転移、胸膜浸潤は MPP 陽性群で有意に多く認められた ($p = 0.01, p$

● 研究奨励賞 ●

= 0.02)。全症例での、MPP 陽性群と陰性群の 5 生率は 54%と 82%で MPP 陽性群で有意に予後不良であった ($p = 0.01$)。野口 C での MPP 陽性群と陰性群の 5 生率は 54%と 100%で MPP 陽性群で有意に予後不良であった ($p = 0.01$)。野口 C で p-stage 1 であった症例 ($n = 56$) において、同様に

5 生率をみると、MPP 陽性群は 69%、陰性群は 100%で MPP 陽性群が予後不良の傾向を示した ($p = 0.08$)。

(考察) MPP は小型肺腺癌症例特に野口 C 群において有用な予後予測因子であり、その有無により細分類が可能であった。

詩本好史氏のことば

今回平成 19 年度研究奨励賞を頂き、非常に光栄に思っています。私は平成 8 年に福岡大学医学部を卒業し、第二外科に入局いたしました。平成 13 年より福岡大学大学院に進み、病理学教室にて岩崎宏教授、鍋島一樹教授のご指導のもと、肺癌の病理診断、研究をさせて頂きました。研究成果を論文という形にできたこと、また病理診断のおも

しろさや重要性を学ぶことができ、ある程度ですが病理診断力を得たことが最大の喜びです。ご指導頂きました岩崎、鍋島両教授、そして大学院への進学をすすめていただいた白日教授には本当に感謝いたしております。

今後も臨床と研究の両面で頑張っていきたいと考えております。本当にありがとうございました。

平成 20 年度 福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞 募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由 (医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による (所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
Tel 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成 20 年 4 月 30 日 (水)

賞状・賞金：奨励賞 (優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：平成 20 年 7 月、第 27 回同窓会総会席上

そ の 他：①受賞者は研究報告書を提出する事 (研究は 2 年以内に終了)

②受賞者は研究成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績 (原著、著書、症例報告、学会発表)、研究の独創性・重要性を十分に書く事

前川教授就任ご挨拶と祝辞

福岡大学筑紫病院外科教授就任のご挨拶

福岡大学筑紫病院外科 教授 前川 隆文 (2回生)



前川 隆文 教授 略歴

- S54. 3 福岡大学医学部医学科
卒業
- S54. 6 福岡大学病院第二外科
臨床研修医
- S55.12 北九州市立小倉病院
麻酔科 臨床研修医
- S56. 6 福岡大学医学部第二外科
医員
- S58. 4 福岡大学大学院医学
研究科 入学
- S62. 9 福岡大学大学院医学
研究科 修了
- S62.10 福岡大学医学部第二外科
助手
- H元. 4 福岡大学医学部第二外科
併任講師
- H 3. 5 米国ハーネマン大学
医学部外科 留学
- H 4. 5 福岡大学病院救命救急
センター 併任講師
- H 4. 10 福岡大学病院第二外科
講師
- H16. 9 福岡大学病院 NST 室長
兼任
- H18.10 福岡大学病院
消化器外科 講師
- H19.10 福岡大学筑紫病院外科
教授

平成19年10月1日付けで有馬純孝前教授の後任として福岡大学筑紫病院外科の教授を拝命いたしました。ここに福岡大学医学部同窓会（烏帽子会）の会員の皆様にご報告とご挨拶を申し上げます。

私は昭和48年4月に福岡大学医学部に入学、昭和54年3月に2回生として卒業し同年の6月に福岡大学病院第2外科（犬塚貞光教授）に臨床研修医として入局いたしました。入局当時の直接の指導医は白日高歩講師（現呼吸器・乳腺内分泌・小児外科教授）でした。翌年には三戸康夫助教授率いる食道疾患グループに配属され当時始まったばかりの食道癌に対する一期的三領域リンパ節郭清（頸部、胸部、腹部リンパ節郭清）に参画し、術後呼吸器合併症に対する人工呼吸器管理の日々が思い出されます。昭和55年12月から半年間、麻酔科教授壇先生の御好意で北九州市立小倉病院麻酔科で飛松部長に指導を仰ぎました。昭和58年4月からは、児玉好史助教授のもと、胃グループに配属され、胃全摘出術後の逆流性食道炎の臨床研究に従事しました。その後、臨床大学院に進み、胃癌局所におけるTリンパ球サブセット研究に従事し岩崎病理学助教授（現福岡大学医学部病理学教授、医学部長）のご指導で学位を得ました。昭和62年10月、福岡大学医学部第二外科助手に採用、神代龍之介助教授のもと大腸直腸疾患グループに配属され、チャコール（CH44）を用いた下肢リンパ管造影による骨盤内リンパ節染色法を考案し、直腸癌手術の神経温存リンパ節郭清を施行しました。平成元年に米国のハーネマン大学医学部外科より松本教授を招いて、成犬による腹腔鏡下の胆嚢摘出術の実験実技を行い、福岡大学病院で初の腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行しました。この後、平成3年5月から一年間、米国ハーネマン大学医学部外科に留学しKerstain外科教授指導のもと、Femoro-Femoral Bypass術、Femoro-Popuriteal Bypass術の臨床研究に従事しました。帰国後は、福岡大学病院救急救命センターに配属され腹部救急に従事し、平成4年10月に福岡大学病院第二外科講師に昇格し、直腸癌手術における直腸断端肛門挙上器を考案し、直腸の超低位前方切除術を多数施行しました。平成5年6月に白日高歩教授が福岡大学医学部第2外科に着任され川原克信助教授（現大分大学医

学部第2外科教授)の指導にて胸腔鏡下食道亜全摘出術、山下裕一助教授(現福岡大学医学部消化器外科教授)の指導で膵頭十二指腸切除術・肝亜区域切除術を修練しました。平成16年9月には、福岡大学病院NST室長を拝命し、NST活動を通じて病院全体の入院患者の栄養管理を行っています。昨年は、福岡大学病院初の生体肝臓移植に参加し、これまでに3例の肝移植術のドナー手術に参画しました。平成18年10月に大学の臓器別再編に伴い福岡大学医学部外科学講座消化器外科教室(山下裕一主任教授)が誕生し福岡大学病院消化器外科講師へ移動いたしました。近年は、外科医の育成のため臨床研修医の指導と消化器外科専門医育成に尽力し、術者教育に専念して参りました。私どもの領域の外科学は専門化が進み、なかでも消化器外科専門領域の細分化は、食道、胃、大腸、肝、胆、

膵などの1臓器を専門とする外科医の養成が行われ、これに加えて、乳腺内分泌外科、呼吸器外科、小児外科、心臓外科と習得する臓器ごとの専門分野は増大しています。反面、社会は、全人的医療が提供できる医師を期待し、研修医制度も改変され、臨床各科の研修が必須となりました。関連病院や地域の先生方に、外科診療体制と外科治療内容を御理解いただき、病病連携および病診連携をより進めて症例数の確保と外科専門医および指導医の育成を行い、より高い外科診療レベルを追及し、安心感や信頼感のある患者と医師の関係を構築し、地域医療に貢献できる外科臨床病院を目指したいと思えます。会員の先生方には今後とも何卒宜しくご指導ご鞭撻いただきます様節をお願いしてご挨拶とさせていただきます。

初めての教授誕生

「山笠会」(2回生同窓会)世話人 江下明彦(2回生)

前川君教授就任おめでとう!本当におめでとう!と言うことで九月の連休の前日、2回生でささやかな祝賀会をいたしました。

急な呼びかけでしかも連休前にもかかわらず30名(総数82名)の同窓生が集まってくれましたが、中には卒業して初めて見る顔や、大阪から久しぶりに駆けつけてくれた友もあり、実に楽しい時間を持つことが出来ました。

これはもちろん前川君の人柄に負うところが大きいのですが、実はほぼ皆「2回生には教授は誕生しないだろう。」と内心思っていて、今回の初めてのまさかの教授誕生に狂喜したと言うわけです。名誉のために申し添えますが、2回生に今まで人材が居なかったわけではなく「黒子の2回生」と言っていて、実力はあるのに人が良くて遠慮がちで気がつけば旬を過ぎていたり、父上の病気で早くに実家

に戻らなければならなかったり等、まあ運がない学年と言うところでしょうか。

しかしながら唯一の先輩である1回生の教授誕生の時には我が事のように喜び、数えるのもいやになるくらい続々と教授、助教授(おっと准教授か)を輩出する3回生にも「僕らの分までありがとう。」と感謝の気持ちを忘れずに、「それにしても毎回毎回祝賀会たいへんやろうなあああ」と要らぬお世話を密かにしていた2回生ですから、今回の身内の教授誕生は歓喜の世界でありました。

祝賀会では内々のこともあり「同級生に仲人頼める教授が出来て良かった。」とか「すぐ応援に駆けつけてくれる外科医を育てろよ。」とか皆結構勝手なことを言いましたが、もちろん本心は、心から教授誕生を喜び、退任までしっかり福岡大学病院に尽くし、後輩をしっかり立派に育ててくれよと言うメツ

ページでありました。

今、大学病院は大きく変わる時を迎えています
が、このような時代に前川君が教授になったことは
2回生の誇りであり、適任であると断言できます。

前川教授の今後の大活躍を2回生一同期待し
応援いたします。

卒業生の皆様どうぞよろしく願いいたします。

前川隆文 教授就任のご祝辞

Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School 秀島 輝 (4回生)

同窓また同門の後輩の一人として、前川先生の
筑紫病院教授就任を心からお祝い申し上げます。
私にとって本当に自分自身のことのように嬉しいこ
とです。また日本を長らく離れいるにもかかわらず、
このような祝辞を書かせていただく機会を頂いた
のは光栄の至りです。

思い起こせば前川先生と私の関わり合いは20
数年前に私が第二外科に入局した時から始まりま
す。前川先生はご存知のように福岡大学の2回生
で私は2年後輩になります。私はほとんど何も考え
ずに(これがまずかった?)第二外科に研修医として
入局し、当時3つの部屋に分けられていた研究室
(医局員室)の一つ(3研)に入れられました。その
時に私の右隣に構えていたのが医員の前川先生
でした。前川先生は当時も、そして今も(一見おお
ざっぱに見えることもあります)とても繊細な神経
の持ち主で気が回る方でした。こうして私と前川
先生の抜き差しならない縁の始まりました。

研修医時代には多くの患者を前川先生が主治
医で私が副主治医という二外科若手の最強(?)タ
ッグで持ちました。当初は右も左もわからないこと
ばかりでしたが、前川先生は持ち前の面倒見の良
さで、いろんなことを教えていただきました。ありが
とうございます。その後、私が大学院を終わり一回
目の留学から帰ってからは多くの手術を一緒にさ
せていただき、実に多くのことを学びました。感謝
に耐えません。そして私が最も感心するのは頼ま
れた診察や手術に背中を見せたことは、私が(今
でも)知る限り一度もないことです。真夜中でも早

朝でも常に先頭に立って、むしろ急患を診るときの
ほうが生き生きとしているようにさえ見えました。ま
さに外科医のお手本です。

先生との楽しい思い出はたくさんありますが限
られたスペースでは語りきれません。当時先生は
毎週(たしか)火曜日に院外へアルバイトに行かれ
ていたと思います。私は親鳥を待つ子ツバメのよう
に帰りを待って、先生の面倒見のよさに甘えてアル
バイト代の半分くらいは病院帰りの飲み食いに遣わ
せてしまったと思います。ごめんなさい。いつか
お返しをしたいと思っています。院外での思い出
はさらに楽しさが増幅します。前川先生はご存知
のように夏はマリンスポーツ、冬はスキーと通年全
天候型スポーツマンで、冬のスキーは度々ご一緒
させていただきました。今となってはニセコ高原ホ
テル前のだらだら坂で乗っていたタクシーが立ち
往生したのを、一緒に押し上げたのも楽しい思い出
の一つです。

一つだけ注文(お願い)があります。それは口か
ら泡を飛ばして猛烈な早口で話す癖を直してくだ
さい。アメリカではボストニアンは早口で知られて
いますが、先生の早口はそれ以上で日本語なのに
通訳が必要なくらいです。

教授就任後はこれまでとは違った苦労もあるかと
思いますが、さらなる研鑽を願っています。私も離
れた地からではありますが精一杯の応援をしてい
きたいと思っています。学生の皆さんもどうぞ筑紫
病院外科の門をたたいてみてください。すばらし
い指導者が待っています。

小川教授就任ご挨拶と祝辞

小児医療で七隈と筑紫の架け橋に

福岡大学筑紫病院小児科 教授 小川 厚 (6 回生)



小川 厚 教授 略歴

- S58. 3 福岡大学医学部卒業
- S58. 4 同小児科入局、同大学病院小児科 (研修医)
- S59. 6 福岡赤十字病院小児科 (研修医)
- S60. 6 福岡大学病院小児科 (医員)
- S61. 1 下関厚生病院神経小児科 (医長)
- S62. 1 福岡大学病院小児科 (医員)
- S62. 7 和白病院小児科 (部長)
- S63. 6 福岡大学病院小児科 (医員)
- H 1. 4 福岡大学筑紫病院小児科 (医員)
- H 2. 6 福岡大学病院小児科 (医員)
- H 2. 7 カリフォルニア大学サンフランシスコ校リサーチフェロー
- H 3. 10 福岡大学病院小児科 (助手)
- H 5. 4 福岡大学病院救命救急センター (助手)
- H 8. 10 福岡大学病院小児科 (併任講師)
- H15. 4 高邦会高木病院小児科 (部長)
- H17. 10 福岡大学病院小児科 (併任講師)
- H19. 4 福岡大学病院小児科 (講師)
- H19. 10 福岡大学筑紫病院小児科 (診療部長・教授)

本年 10 月 1 日より福岡大学筑紫病院小児科の診療部長・教授を拝命いたしました、小川厚と申します。烏帽子会の皆様には長年にわたり深いご理解と支援を賜りました。この場を借りて、こころより感謝申し上げます。

まず自己紹介をさせていただきます。1958 年、大分県佐伯市生まれです。産婦人科開業医である父の影響を受け医師を志し、1978 年福大医学部に入学。学生時代は剣道部三昧でした。そのくせ団体戦レギュラーは副主将時の予選 1 試合だけです。と、とても弱い選手でした。1983 年卒業、すぐに母校の小児科に入局しました。小児科に入局しようか、産婦人科にしようか迷いましたが、父親の「お前が医学部に入っただけで俺は十分満足だから、好きな事をせい！」という言葉に甘えて好きな小児科を選びました。

研究歴ですが、入局 8 年目に研究のチャンスが巡ってきて、カリフォルニア大学サンフランシスコ校へ 1 年 3 ヶ月留学し肺サーファクタントアポ蛋白 SP-A の研究を行わせて頂きました。その後、リサーチを臨床神経生理学に変え、交感神経皮膚反応 (Sympathetic Skin Response: SSR) の小児における正常値の検討や異常症例の検討を行いました。この SSR を用いて自律神経機能の年齢依存性変容の検討を行い、2000 年の日本臨床神経生理学会のシンポジストを勤めさせていただきました。

臨床実績ですが、昭和 59 年、研修 2 年目に福岡赤十字病院の 1 年間、毎日の新生児救急オンコールを自ら希望し行ないました。また、昭和 62 年、地域の救急医療の充実を目指した福岡市東区、和白病院の立ち上げに参画し、一人部長で毎日小児科のオンコールを行いました。平成 5 年から 2 年間、福岡大学病院救命救急センター専任スタッフ (助手) として小児のみならず、成人の救急救命患者の診療に参加しました。平成 15 年、当時の満留昭久主任教授の命を受け、大川市の高邦会高木病院小児科に部長として出向し地域の小児救急医療の再生に取り組みまし

た。高木病院の小児科は東京大学系列のスタッフで診療されており一時は6名の小児科医を擁し24時間365日の小児医療に取り組んでいましたが、徐々に人数が減り、最後の一人を残すのみとなっております。東大医局が引き上げた後に、たった一人で出向きました。二年半の出向の間に一人から二人、三人、四人と徐々に小児科医を増やして頂き準夜帯までの救急対応を行いました。現在、高木病院はスタッフ6人で24時間診療を行っており、地域医療に貢献しています。

これらの経験の中で、小児救急医療の充実が福岡大学筑紫病院には必要と考え、教授選考に応募させて頂きました。昨今、小児医療は崩壊の危機があると警鐘が鳴らされています。私達はこれに対し、何らかの手を打たなくてはなりません。少子化で子供は減っているのに何故でしょうか？小児時間外受診者数は、ますます増加の一途をたどっています。最近では軽微な症状でも夜間に不安が増し、専門医を受診したいと言う傾向がでてきています。育児不安も救急医療の対象となるのです。これを称してPsycho-social emergencyと申します。数多くの軽症例の中にごく少数の脳炎・脳症、髄膜炎など重症例が紛れ込んでいるのが小児救急の難しいところです。この小児救急医療の充実をこれからの私のめざすものとしようと思立ちました。そして筑紫病院がその場所でした。

さて、福岡大学筑紫病院の将来構想ですが、同病院は平成19年4月19日、福岡県知事より地域医療支援病院の承認を受けました。同病院は、地域に密着した救急医療を目指すとともに質の高い医療と情報を提供することをその目標としています。また、そのホームページにおいて地域医師会員の紹介患者であ

れば重症熱傷以外は24時間何時でもすべて受け入れることを表明しています。福岡大学筑紫病院の診療圏と考えられる筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川町、小郡市を合算した人口は36万3千人程度ですが、近年の都市型回帰現象のもと、小児の人口は増加傾向にあります。また、その立地は福岡平野と筑紫平野をつなぐ交通の要所です。努力次第ではその医療圏を南に広げることも可能でしょう。筑紫病院にとって地域医療支援病院を維持するために小児救急医療は重要だと考えられます。

小児救急医療整備のため、日本小児科学会は医療圏集約化プランを提案しています。1次、2次を担当する地域小児医療センターは30-50万人にひとつ、3次、小児ICU、NICUを併設する中核病院は100-300万人にひとつ。まさに筑紫病院と七隈の福岡大学病院の関係に一致します。この集約化プランでは地域小児医療センターの適切な人員配置は10人と言われています。現在筑紫病院のスタッフは7名体制ですが、廣瀬伸一主任教授に増員をお願いしつつ、チーム医療、シフト制、当直空け診療禁止などの工夫で乗り切っていきたいと思えます。

私の抱負は小児医療を通じて筑紫と七隈の架け橋となる事です。筑紫病院が地域に根ざすためには小児救急医療の充実が必要と考えます。また、1次、2次救急と3次救急がスムーズに連携できるのが、私たち福岡大学の強みだと思います。

以上、私の抱負について述べさせて頂きました。皆様にはこれからも末永く御指導と御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

小川福岡大学筑紫病院小児科教授就任のご祝辞

福岡大学医学部主任教授 廣瀬 伸一 (3 回生)

小川厚先生の福岡大学筑紫病院小児科教授ご就任を、心よりお祝い申し上げます。私が主宰する教室から教授を輩出できたことを嬉しく、また誇らしく思います。加えて、同じ福岡大学医学部同窓会の一員として、小川先生のご就任は私自身の大きな喜びと励みになりました。

教授ご就任は、ひとえに小川先生御自身の努力と実力に拠ることを、選考の経緯を含めご説明しておきます。今回の小児科教授全国公募が決定し、当初、私は選考会委員の一人に選出されました。しかしながら、教室員が応募者に含まれる場合、主任教授は選考委員から外れることが常で、小川先生を含め学内外から四名の応募があった時点で、私は選考委員を降りました。応募者四名は、いずれも劣らぬ候補者であると判断され、全員による意見交換会が実施される運びとなりました。この時点でも、私は学内候補者二名に推薦状をお書きしておりましたので、公平を期すため小川先生の意見発表の指導はもとより、事前に内容を確認することすら慎みました。

こうして、私としては虚心坦懐で臨んだ意見発表会でしたが、小川先生は他の候補を圧倒する非常に完成された発表をされました。小川先生は、筑紫病院を取巻く小児の医療を患者動態から医療

収入に至るまで驚くほど緻密に調査されており、筑紫病院にかける意気込みが窺えました。さらに、現在全国で試みられている地域の病院小児科への支援構想を踏まえた上で、筑紫病院小児科が直面している問題点とその解決策とを、独自の視点で明快に示されました。沈滞しがちな地域病院小児科の活性化策や、小児科医の過労対策などが具体的に示され、私自身小児科医として非常に啓発されました。以上の経過で小川先生が高く評価され、筑紫病院小児科教授として見事に選出されるに至りました。

小川教授が強調されている事のひとつに、筑紫病院と七隈の小児科の相互関係の強化があります。いままでは、ともすれば相互の結びつきが希薄になる傾向があったことは否めません。しかしながら、現在小児医療が直面している問題は、筑紫病院と七隈の小児科が共有して立ち向かうべきものばかりです。幸い都市高速の開通により、そして今、小川教授の誕生により二つの小児科は文字通り近くになりました。小川教授の率いる筑紫病院小児科と七隈の小児科が兄弟惑星のように互いに連携し影響し合いながら、共に明日の「福岡大学の小児科」を築いていけるものと確信します。

小川 厚 君の福岡大学筑紫病院小児科教授就任の祝辞

天神クリニック 上村 精一郎 (6 回生)

私は、小川 厚君とは昭和 51 年医学部同期入学の仲間と言うことと、留学先が同時期で同じカリフォルニア大学 (サンフランシスコとデビス) であったことなどから、今回彼の教授就任の祝辞を彼から直接依頼されました。まだ他に私よりもっと良い適任者がおられると思いましたが、拙筆をお許し頂いてお引受け致しました。

入学後彼は剣道部、私は野球部とはほぼ毎日勉

強よりもスポーツに明け暮れていた様に思います。かなり以前までは、医学部にはそれぞれの部室はなく、道具倉庫のようなものがプレハブ造りで解剖学教室の横の道沿いに作られていました。その倉庫の前で 2 年か 3 年の真夏の合宿中か、練習後の午後か忘れましたが、彼が買ったばかりの様な赤いスターレットを時々ここにこしながら洗車していました。その時、西医体や九山の話、激しい先輩方

との飲み会の話、留年しないための試験勉強の話などをしていたことなどが思い出されます。こんなことを言っただけは大変に失礼ですが、私と同じく彼は必ずば抜けて成績が良かったとは言えないと思います。しかしながら、日頃から無謀なことはあまりせず、正直さと謙虚さが人格として備わり、剣道で鍛えた体力、集中力、粘り強さとアルコールで鍛えた肝胆力により真っ直ぐ卒業して、真っ直ぐ国家試験にもパスできたものだと考えます。その後彼は小児科医へ、私は内科医へと別々の道を歩み、忙しいためにお互い会ってゆっくり話しをすることなどめったにありませんでした。

しかし、平成2年7月にサンフランシスコで再会しました。私は昭和63年の暮れより渡米していてサンフランシスコの近郊に住んでいたため、彼の留学と留学後のアシストを依頼されました。あまり記憶が定かではありませんが、研究がうまくいかず私自身がかかなり留学後落ち込んでいた時期だったせいもあり、留学のいろいろな面での大変さや苦しさをとくとくと説明して話をした様に思います。その時彼は、人柄どうりにほとんど黙って私の他愛もない愚痴を聞いてくれたことを記憶して

います。

その後帰国して、さらに苦労を重ね平成5年3月に彼と私は博士号(論文博士)を同時に取得できました。そして私は色々な要因により大学を離れましたが、彼は大学の同期では最後の方まで、大学病院の難しい周産期母子医療に従事しながら、研究と後輩達の教育に誠心誠意励んできたことは、自他共に認知しうることだと思います。そして彼の数々の研究業績と科学としての医学の教育能力と普通の人としての指導能力の高さ、更に非常に高い臨床能力が大いに認められて、この度小児科教授に選ばれたことは至極当然の成り行きのような感じがしてなりません。今後は大学病院の教授として、地域医療のため、若い医学生や医師のため、これからの医学レベルの向上のために、彼のその高い能力を遺憾なく発揮されんことを望んでやみません。

小川 厚君 小児科教授就任おめでとう。同期の者として大変嬉しく、大きな誇りです。今後とも同期の皆が陰ながら応援しています。お体を大切に御活躍を祈念します。この度は、本当にうれしいお知らせを有難うございました。

福岡大学創立 75 周年記念事業募金 寄付状況第 1 回発表 19.8.31 現在

区 分	件 数	金 額 (円)
在 学 生 父 母	1,109	20,104,968
卒 業 生	1,165	42,782,023
法 人	51	4,260,000
職員(退職者を含む)	142	15,216,000
そ の 他	9	348,219
合 計	2,476	82,711,210

— 募金に関するお問い合わせ —

福岡大学創立 75 周年記念事業募金事務局

TEL : 092 - 871 - 6631 (代) 内線 2120 ~ 2122

FAX : 092 - 871 - 6826

E-mail: bokin@adm.fukuoka-u.ac.jp

教授退任挨拶

七隈とんびの回想

福岡大学名誉教授（生理学） 今 永 一 成（特別会員・原土井病院健康増進部）



福岡大学に医学部が創設された昭和47年、私は生理学助教授として九州大学から赴任しました。4年後金沢医科大学教授に転出しましたが、3年後、昭和54年幸運にも再び福岡大学

に教授として招かれ、爾来28年間学生諸君と共に勉強してきました。その間、学生部委員、教務委員、国際交流委員を、また運動部（漕艇部）顧問を務めたこともあり、悲しいこと喜ばしいこと多々ありましたが、多くの学生諸君との素晴らしい邂逅を懐かしく思い出します。医学部も着々と発展を遂げ、3000名を超える卒業生諸君も夫々の分野で活躍、大成しておりますことは大慶の至りであります。今年の3月末、創設期を知る最後の者として定年（70歳）を迎えました。

大学の使命は「教育と研究」であり、私の教育・研究の理念は「座右の銘」とする「格物致知」と「温故知新」に基づいています。ご存知のように、前者（「大学」）は「事物の理を究明し自己の良知を磨き知識をその極まで高めること」、後者（「論語」）は「古きことを学び、その中から新しい価値、意義を求め現在に生かすこと」です。

教育理念は時代の流れによって形成されてきたものであり、その本質は、「教師の役目は、学生諸君の「自己研鑽・学習」の環境を整え、輔佐し、そして才能を引き出すこと」であり、そのために轍を踏まぬように最善の策を練っているのです。これは学生諸君の自覚がなければ画脂鏝水です。手取り足取りの教育は、教育理念に反し「百害あって一利なし」と思うの

であります。正に、「学而不思則罔、思而不学則殆」（論語）です。

研究の真髄は先達の偉業をさらに発展させ、新しい知見への挑戦であります。広い深い背景があつてこそその研究であり、単なる思いつきの、銅を鉄に変えるだけの研究は、いくら論文数があつても同工異曲、興味索然となり受け継がれないでしょう。

斯くして、理を求める道に於いて歴史を振り返ることは、現在から未来への進歩の糧であり、教訓であります。新しいことを成し遂げたときそこに感激が湧きます。「感激なき人生は空虚なり」。

最近の学生気質をみると、友人意識が乏しいように感じます。大学生活の大切な意義は、勉学はもとより縦横に繋がる友人を持つことです。不幸にして友人に恵まれない人もいます。個人主義なる故に友人が出来ない、友人無き故に個人主義は助長され心も狭量になります。在学生諸君は是非ともクラブ活動などで先輩、後輩を含め信頼すべき友人を持つて頂きたいと思います。先輩は後輩を励まし、後輩は先輩を尊敬し、互いの信頼のなかに育まれる心の絆は「母校愛」となり、「校風」として受け継がれるでしょう。福岡大学医学部の将来は、卒業生諸君と在学生諸君の母校愛にかかっています。諸君の益々の奮闘と福岡大学医学部の益々の発展を祈念して止みません。

最後に、微力ながらも責務を果たし得たことは私の喜びであり、これ偏に多くの先輩、同輩、後輩諸氏の温かいご支援の賜物であり深甚なる感謝を捧げます。現在、有難いことに人の為に生理学を活かすことが出来る分野の職に恵まれております。

副医学部長就任挨拶

医学を学ぶと言う誇り

島根大学医学部 副医学部長 眼科学教授 大平明弘 (1回生)



大学にとって、教育は医師を創出できる唯一の機関である以上、極めて重要な責務を担っています。昨今、改革と称する様々な機構変革が行われていますが、今の日本に必要な事は欧米で行われ

ているシステムを導入し、医学教育の上辺だけの改革を行う事ではなく、真を捉えた、日本の医学教育に適合したシステムを作り出し、現況の検証を行うべきです。

現在の医学教育に危惧される点として、(1)知識注入に力点が置かれて体系的知識・結晶化した知識となっていない。(2)自学自習の習慣が身に付いていないため自己創造的な知識増殖がない。(3)医師として必要な情緒面での教育が貧困である等があげられます。これらの問題は是非とも解決しなければなりません。医学についての自学自習を進めるには、それを支え可能にするだけの基礎学力・知識が必須です。基本的な知識のない者が自分だけの力で書物や論文に当たり、いくら深く調べてみても、結局は表面的に分かった気分になるだけのことなのです。基礎学力と知識の不足ゆえに、物事の真髄への到達と理解は不可能なものになってしまいます。

現在の技術偏重の医学教育から脱し、人としての常識、物事を批判的に捉える哲学的思考、多岐に渡る知識の獲得、教養を身につける為の学問は重要です。合理性のみに目が行き、一見、無駄に思えるような学問の軽視が現代日本

人の品性を失わせていることは間違いありません。医学教育にあたっての制度改革は絶えず社会からの圧力として大学に降り掛かっていますが、人として、一生をかけて成長していくことは当然のことです。医師の生涯教育の制度が検討されていますが、そのような想いは外圧によって得られるものではなく、自らの判断でなされるものです。医学を学ぶと言う誇りを今一度、自らに問い直す時と思います。

大学は理想を掲げ、理念に基づき、研究、臨床に情熱を注ぐ学問の府であるべきで、現在のように経営、利潤追求、経費節減に労を費やす場ではないと思います。無駄な経費は省き、効率をもとめることは時代の要請ではありますが。収益増加もなさなければなりません。それは2次的な産物であるほうが、精神的には良いでしょう。大学病院は病める患者のために先端医療を施し、多くの人命を救い、健康な生活がおくれるよう、医療人は努力し、世界に通用する医療を開発し、最新、最良の医療を行うことにより患者、市中の病院、開業医からの絶大な信頼を得て、安全な医療を行う、これが本来の使命です。

大学にとって研究こそが世界に対して、これまでの日本の高い医学的先進性を支えて来ました。その必然性自体が否定されるような環境が構築されてきています。私たちは原点に立ち返り、研究の整備と基礎臨床の架け橋と成るようなシステムを作り出さなければなりません。

このようなことを考えながら、10月より、副医学部長の責任を果たして行こうと思う今日この頃です。

島根大学医学部眼科学教授 大平明弘 先生 (1回生) が10月1日付けで同大学の副医学部長にご就任されました。心から御祝い申し上げます。先生のご挨拶と所信を掲載させて頂きました。

学生対策行事

新入生歓迎会

常任理事 笠 健児朗 (12 回生)

平成19年5月11日(金)
19時より福新楼において恒例の新入生歓迎会が行われた。

参加人員 新入生84名、OB20名、それに医学部から教育計画部の出石教授、副担任の谷原准教授のご参加を戴いた。

今回の担当は二田哲博理事(9回生)と私である。最初に高木会長から熱い言葉で暖かい励ましの言葉があり、権藤福岡支部長の乾杯の音頭で宴に入る。

宴の合間を見て先輩方の励ましの言葉が続く。最初神妙であった学生諸君も宴が進むにつれ緊張もとれ、直ぐに先輩と後輩との和気藹々の雰囲気醸し出された。厳しさと優しさ、対話は自然に同窓の絆を固く結んでいた。

宴も終わりに近づいた頃、松本専務理事の総括がある。ポイントを外さず切り込みそ

して包み込む。厳父と慈母の両面を駆使した話術は定評がある。そこで学生は感動する。

次いで新入生代表の石川真史君(学籍番号1番)から謝辞と決意表明があり、全員に同窓会からTシャツが贈呈された。最後にそのTシャツを着て円陣を組み、校歌の大合唱で新入生歓迎会は終わった。



写真 上
懇親会

写真 左
校歌斉唱

このTシャツは何時からともなく解剖実習衣として愛用されている

M4 激励会

専務理事 竹下 盛重 (3 回生)

2007年9月14日、薬院、タカクラホテルで上記激励会を行いました。昨年までM4年生激励会は天神、福新楼でおこなっていましたが、学生の参加が半分を切る状態が2、3年続き効果的でないこと、M4年生の2月に行われます共用試験CBT (computer based test) への効果もねらい、趣向を新たにしM4年生チームワークプロジェクト企画と銘を打ち、行いました。学生80名、OB20名、M4年生副担任であります坂田教授を始め数名の副担任の方が参加しました。第一部としまして、客員教授であります自治医科大学救命救急部、国試対策室長河野正樹先生に医師国家試験の現状と離島医療についてご講演をいただきました。実際の国家試験必須問題を入れていただき、現在学んでいることが出題されていること、また医療のなかで即座に判断し、応用されていることを間のあたりにし、学生達は感銘を受けておりました。学生も非常に有益であったと言っておりました。第二部は、立食形式のパーティーを行いました。正式な着衣で来るようにいっておりました学生達が、大学内と違い大人にみえたといわれたと坂田教授もコメントした様に、

4年生になり段々と現実味を帯び、頼もしくなってきました。眼科林英之教授の厳しいご助言、中村秀治先生のM4の娘さんがこの会場から逃げたユーモアあふれるお話、その他OBの方々数人からアドバイスをいただきました。そして重田正義、松本直樹両先生のOBの結束のお話と繋がり、学生もOBもチームワークを作るにはいい機会であったと思います。我々にとり、未来の医療を支える医師になれることを期待してもよいM4年生ではないかと思えます。さて、反省点では、学生全員にきていただきたかったこと、もしくはそれを促すことを十分にできなかったことです。やはりチームワークはみんなで欠けずに助け合い作るものと反省しております。今回多額な援助のもと激励会を行いました。出席者が増えたこと、また講演会で刺激できた点等が効果的であったと思いますが、来期からいかにするか決定されていませんが、できれば学生たちに有意義な話を聞かせてあげたいと思います。学生が全員出席するような会になればとも思います。学生の心を動かす講演者を探しております。心当たりがある方は、ご一報ください。



教室・医局紹介

生化学教室のご紹介

講師 衣笠 哲 史 (10 回生)

当教室は、1973年に生化学第1教室としてスタートした講座ですが、2002年の基礎系講座の再編により生化学第2教室が細胞生物学に統合されたのに伴って生化学教室は一つになりました。

現在のスタッフは、黒木政秀教授、宮本新吾准教授、衣笠哲史講師、芝口浩智講師、田中俊裕講師、山田博美技手と秘書の常賀久美子です。また大学院生として前川信一(4年:呼吸器外科)、柳澤 純(3年:呼吸器外科)、深見達弥(3年:産科婦人科)、四元房典(3年:産科婦人科)、濱中和嘉子(2年:呼吸器外科)、松尾美希(2年:皮膚科)、水流弘文(1年:消化器外科)らがおり、臨床医として従事していたときに興味をもったことや疑問に思ったことについて斬新なアイデアに基づき、生化学的手法を用いてパワフルに研究に打ち込んでいます。学部学生の井手博子(4年:理学部化学科)も参加しています。一方、研究員としては王 凜(中国:桂林大学)、また福岡大学分子腫瘍学センターから廣瀬由美子技手とポストクの趙君(中国:第四軍医大学)が出向し、今年4月から医学部看護学科に移動した黒木 求教授も時間を見つけて研究の指導に当たっています。

研究は黒木教授を中心に、癌の分子標的治療(宮本ら)、癌の超音波療法(黒木求ら)、炎症性及び悪性腸疾患の診断・治療の標的分子の解析(衣笠ら)、癌の免疫療法(芝口ら)、遺伝子治療(田中ら)などを

行なっております。業績の学会発表は主として癌学会、免疫学会、生化学会で行なっており、また、いずれのグループも例年国際学会でも発表しております。一方、論文とくに原著論文は英文で書くのを原則としており、大学院生にとっては特に最初のころは悪戦苦闘のようです。

教育では、大学院の講義として、分子腫瘍学、腫瘍免疫学、免疫化学を担当し、学部の講義では、人体機能学Ⅲ(生化学)の講義と実習、統合基礎医学(PBL テュートリアル)を担当しております。また、研究の厳しさの半面レクリエーションも盛んです。黒木教授の座右の銘である「よく学び、よく遊べ」を実践すべくボーリング大会や有志が集まっている釣りツアー、野球観戦ツアー(ホークス)も恒例となっており、さらにテニスやゴルフ、あるいはカラオケパーティーなど目白押しです。

所属講座を問わず、研究設備の利用や研究技



術の指導を開放しておりますので、大学院生のみならずどなたでも気軽に相談にいらしてください。また、今年から福岡大学大学院医学研究科では、外部の社会人をはじめ、助教、助手の方々なども働きながら大学院で学べる制度が新設されました。

私たちの教室はこのような「社会人入学」も大歓迎しています。

是非一度、このような、活気ある教室にみなさんお出かけください。また、学生諸君もいつでも自由に質問や人生相談に来てください。

公衆衛生学教室紹介

公衆衛生学教室 教授 守山正樹 (特別会員)

公衆衛生学教室は1974年に開講しました。初代の重松峻夫教授は人口学や癌の疫学を中心に、公衆衛生学の幅広い分野で活躍され、教室を発展させました。1997年からは、守山正樹が二代目として、教室を引き継いでいます。

現在の教室のスタッフは、守山正樹(教授)、三宅吉博(准教授)、田中景子(助教)、牛島佳代(助教)、および林結香里(教育技術職員)の5名からなります。研究としては、守山は保健活動・健康教育学の分野で、小児から高齢者までが、健康をどのように捉えているのかを明らかにし、思考や行動をより健康な方向に転じられるような支援方法について、開発と評価を行っています。三宅は疫学の分野で、アレルギーや生活環境に関連して、2001年には大阪で、また本年は九州で、妊娠中から幼児期までを観察期間とする母子保健研究コホートを立ち上げました。さらに患者対照研究の手法を駆使して、難病の原因を解明中です。田中は、疫学の分野で、特に歯の健康に重点を置きながら、大阪母子保健研究コホートの解析を進め、また九州でのコホートの設立に携わっています。牛島は水俣病発生地域住民の健康度について社会疫学の立場から研究し、ソーシャルキャピタルと健康との関連を解明しつつあります。

講義は衛生学教室と協力して、社会医学 I およ

びⅡを中心に担当しており、「健康についての考え方；Evidence Based Medicine の基礎；環境と人間の健康」などの基礎的な話題から、「医師患者関係；チーム医療；バイオエシックス」といった臨床的な話題まで、広い領域をカバーしています。社会医学は人間的な医療の現場における課題を扱うことが多いため、基本的な知識の習得だけではなく、その知識を対人関係の中で使いこなせるようになることが重要です。そのため、授業と実習の双方の機会を活用して、学生の皆さんに問い掛け、意見を求める、あるいは記述してもらう、など参加型の教育を行っています。

公衆衛生学は幅の広い分野で、多くの皆様のお世話になっています。教育上では、教育計画部の支援を得て、数名から多いときには10名を越える地域住民の皆様にも、ボランティアとして、講義の一部分に参加していただいています。ボランティアの方々には、学習課題に関連して、実体験を語っていただいたり、学生の皆さんと討論していただいたりしています。また研究上では、福岡大学病院や地域医療に携わっている烏帽子会会員の諸先生方からの熱心なご支援を得て、様々な形の疫学研究が現実のものとなりつつあります。

今後とも、烏帽子会の諸先生方よりご指導とご鞭撻をいただきたく、よろしく願い申し上げます。

同窓生交歓(第七回生)

アフター幹事2007

井上隆則 (平尾駅心療クリニック院長)

総会幹事を担当してから早いもので4年経過、今年は11回生が担当幹事になりました。卒業して20年目の再会に同期の花が咲き乱れて、とても疲れたけれども心地よい総会だったと思います。当時から合言葉は一生で一回のお金集めと再会でしたので、予想していたことですが、それ以来なかなか大勢の同期生が集まることは出来ません。今年の総会の7回生の参加者は写真の通り。実はこのメンバー、幹事担当する以前からのレギュラーなので、元通りになったという訳ですね。身近な方には、出ておいでよとお声かけしているのですが、冗談ではなくて、これからは死ぬ前にもう一度、出ておいでと言いたくなっています。

ただ、とりあえず、今年の話題の中心は福大創立75周年記念事業の寄付金です。私は幹事の中から、こういう事態を予測していて、私たちが担当した総会で集めたお金の残りをそのまま維持してきました。当時の最後の実行委員会でも話し合いましたが、この残金をすべて、福大医学部の為に使う事として合意していました。今回のこの寄稿も予測して、7回生および17回生で集めたお金の残りすべてを、この寄付に当てる事を会報で報告するつもりでした。その結果は、別に寄付金の一覧で確認する事が出来るでしょう。これで、私たちが担当した総会の幹事としてのお役目が本当に終了すると考えていました。

本来、7回生の近況報告というのが趣旨ではありますが、ご覧のメンバーは皆、元氣ですよ。実は、写真に載っていない方が一名。確かに総会懇親会の会場にはいたのですが、いつの間にか……いなくなっていました。後で、写真も撮るし、寄付金の話もあるからねって言うておいたはずなのに、K君はどうやら、その後の調査では単身中洲のクラブ活動に出かけていたようです。その活動報告は来年になるのでしょうかね。この原稿読んだら、出て来れないかな? どっちみち、来ても、来なくても、君の話題は続くと思いますよ。



後列左より
井上隆則
伊東博巳

前列左より
大島 恵 (旧姓・安田)
増田博子 (旧姓・諸江)
杉野敬子 (旧姓・福田)

【お願い】 第8回生のご執筆希望者を募ります。ご自由にご投稿下さい。 事務局

支部だより

第 30 回北九州支部総会報告

医) 増田クリニック 理事長 増田雄一 (7 回生)

新緑の候、平成 19 年 6 月 9 日(土)午後 6 時より、リーガロイヤルホテル小倉において第 30 回烏帽子会北九州支部総会が開催されました。北九州支部では総会開催に際して毎年記念学術講演を行ってきましたが、今年は区切りの年として参議院議員西島英利先生をお迎えし「これからの社会保障」という演題で御講演いただきました。御講演終了後は、同会場にて高木同窓会長をはじめ、医師会、有信会北九州支部等からお招きした御来賓の方々と懇親会を行いました。新病院とアネックス建設についてのお話や近況報告等お伺いし、美酒を酌み交わしつつ盛会のうちに記念総会を終えることが出来ました。関係各位のご協力と熱意に敬意を表し、坂本博士支部長以下役員一同深謝いたします。

[追記]

また、新筑豊支部設立と役員改選、北九州西部地区の会員増加等もあり、今年度より菅朗(8 回生)と浅海透(16 回生)両氏に事務局引き継ぎをいたしました。当面は秘書の「上門美津子(うわかどみつこ)さん」が実務を担当されますので、以後ご連絡等は下記新事務局まで御願ひ致します。

医療法人親和会天神クリニック
菅朗(すがあきら)[8 回生](担当:上門)
〒804-0094 北九州市戸畑区天神 1-9-7
tel. 093-871-5911 fax. 093-873-6020
e-Mail address:m-uwakado@tenjin-clinic.or.jp

振り返れば重田先輩直々のご指名後、10 年余にわたり一人事務局故の不手際、何かとご迷惑をおかけしました。手厚き御指導と諸事御高配、誠にありがとうございました。



衆議院議員 西島英利先生



筑後支部総会のご報告

筑後支部長 甲斐保 (2 回生・翠甲会甲斐病院理事長)

平成 19 年 6 月 9 日(土)、ハynesホテル久留米にて、平成 19 年度同窓会筑後支部総会が行われました。出席者は相変わらず多く

39 名を数えましたが、特に講演会演者の廣瀬伸一小児科主任教授には義理のご両親が交通事故に遭われ、ドクターヘリにて搬送され

たにも拘わらず出席して戴きました。アルコールも口にされず、懇親会には最後までお付き合い戴き、夜遅くご自分の車で北九州の病院に向かわれました。支部の講演会にここまで熱意を持って来て戴きました事を、心より感謝致しますと共に頭の下がる思いでした。

さて平成 18 年度本部会費の筑後支部徴収率は相変わらず 100%でした。来年も又そうあって欲しいと願っています。そこで筑後支部でも北九州支部に倣って会費の自動引き落としの検討を始めました。反対の方もいら

っしゃると思いますので、先ずは出来る方からスタートしたいと考えています。所で支部徴収の好調に比べて、本部徴収は 50%やや強とあまり芳しくありません。勤務医の方のご協力を切望します。

最後に今年の新しい取り組みとして、開業医と勤務医の親睦を高めるため、各地区の基幹病院に勤務されている会員の方々の把握に努めたいと考えています。積極的な情報提供を期待しています。



佐世保支部だより

佐世保支部長 冨田 寿三 (とみた産婦人科クリニック院長・7回生)

佐世保支部の近況を報告させて戴きます。

佐世保支部は、平成 19 年 5 月現在、開業医会員 25 名、勤務医 12 名、計 37 名で会を運営しています。

支部としての同窓会は 2 回/年、久留米大学との学術講演会 2 回/年、ビアガーデン会 1 回/年。福岡大学有信会佐世保支部(佐世保出身の同窓生は 1200 人以上)の八日会は 8 回/年、総会 1 回/年 を開催しています。

去年の 4 月に続いて、5 月 11 日に 2 回目の烏帽子会、家族会をセントラルホテルで開催しました(大人 14 名、子供 9 名)。今回は病院関係のパーティと重なったので、参加された会員は少なかった様ですが、奥さん、子供

さん共々、アットホームな感じで、食事も子供達を中心とした食事を出して戴く様にしたため、2 回目となると子供達の会話も弾み、さらに景品抽選会で会は盛り上がりました。(景品のティッシュペーパーを頭に被ったり、バスタオルをマントにしたりとか、子供達の行動にはびっくりします。)

佐世保においてはその他、臨床内科医会、それぞれ単科の会、若手医師の会、敬老会などが種々開催され、烏帽子会を開いても会が重なって参加できない方もあるようです。参加会員が少なくてもめげずに、次回も烏帽子会会員相互は勿論、支えてくれる奥さんと、子供さんの成長を楽しみに、家族会の輪を拓けていこうと思っています。



福岡大学医学部同窓会 在外研究援助金 募集要項

対 象：正会員、準会員及び学生会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提 出 先：〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353（直通） 代表 092-801-1011 内線 3032
FAX 092-865-9484

援 助 金：1件20万円を限度とし、年間10件以内

発 表：その都度、同窓会会報に掲載

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

受 給 者 名 簿（平成19年5月以降）

新 屋 智 志（26 回生）山元病院消化器外科（佐賀県） 医師 20万円
デンマーク、コペンハーゲン 平成19年12月より1年間

福岡大学医学部同窓会資料

平成 18 年度収入支出決算

区分	科 目	18 予算 :A	18 決算 :B	18 決算予算比較	決 算 内 訳
取 入	繰 越 金	8,000,000	8,123,800	▲ 123,800	
	会 費 収 入	24,620,000	25,329,380	▲ 709,380	入会費：4,686,530 学年会費：4,768,000 年会費：15,781,490 連年会費：93,360
	手 数 料 収 入	650,000	629,392	20,608	集金手数料
	雑 収 入	430,000	455,222	▲ 25,222	グッズ売上ほか
	預り金収入	134,000	147,260	▲ 13,260	給与源泉徴収税
	積立金繰入	0	0	0	
	仮 受 金	2,000,000	500,000	1,500,000	代理店勘定運転資金として同窓会勘定より仮受
	借 入 金	0	2,000,000	▲ 2,000,000	運転資金不足のため事業積立金より一時借入
	合 計	35,834,000	37,185,054	▲ 1,351,054	
支 出	給 与	4,102,000	4,126,430	▲ 24,430	常勤 1 名、非常勤 2 名
	旅 費	2,020,000	1,416,540	603,460	役員旅費：340,330 評議員会：366,440 私大連絡会：124,360 通勤旅費：56,500 その他：528,910
	事務用品費	360,000	254,899	105,101	
	印 刷 費	2,032,000	1,590,556	441,444	会報：1,322,790 その他：267,766
	通信運搬費	1,641,000	1,420,900	220,100	電信電話：81,475 会報：616,455 切手葉書ほか：722,970
	設備工事費	310,000	210,000	100,000	維持契約：210,000
	什器備品費	200,000	161,785	38,215	
	事 業 費	12,600,000	9,329,255	3,270,745	講師招聘援助費：180,000 支部活動費：1,156,020 研究奨励費：1,522,050 在外研究援助金：600,000 学生対策費：1,543,812 BSL 用白衣贈与：948,928 国試対策費：2,334,515 その他：1,043,930
	会 議 費	1,600,000	1,431,223	168,777	理事会、会長懇話会：615,458 評議員会：424,042 各種委員会：0 その他：391,723
	公 租 公 課	70,000	70,000	0	法人県市民税：70,000
	雑 費	3,532,000	3,390,575	141,425	税理士報酬：31,500 慶弔費：1,115,400 渉外費：752,819 寄付金：300,000 その他：1,190,856
	預り金支出	134,000	164,560	▲ 30,560	給与源泉徴収税
	引当金積立	2,000,000	0	2,000,000	
	仮 渡 金	2,000,000	500,000	1,500,000	
借入金返却	0	2,000,000	▲ 2,000,000		
予 備 費	3,233,000	3,233,000	0		
合 計	35,834,000	26,066,723	9,767,277		
収 支 差 引	0	11,118,331	▲ 11,118,331		

平成 18 年度残金処分

残金額（収支差引額）11,118,331 円を全額次年度へ繰り越し
運転資金の確保と会員名簿作製費充当のため

平成 18 年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	94,958,081	3,067,942	7,010,433	105,036,456
本年度増加額	4,000,000	787,018	0	4,787,018
本年度受取利息	27,646	610	0	28,256
本年度減少額	0	0	0	0
本年度未決額	98,985,727	3,855,570	7,010,433	109,851,730

平成 19 年度事業計画

項 目	摘 要	必要経費	備 考
① 会報の発行	印刷代：春 170×4,200 部 =714,000 秋 170×4,800 部 =816,000 封筒代：10×9,000 枚 = 90,000 郵送料：120×6,200 通 =744,000	2,364,000	
② 総会の開催	総会準備費：200,000 新入生歓迎費（50 人分）：250,000	450,000	
③ 支部活動援助	講師招聘援助費：50,000×7 支部 =350,000 支部活動費：2,000×600 人分 = 1,200,000	1,550,000	
④ 研究奨励	5 件以内：1,500,000 諸経費：100,000	1,600,000	
⑤ 在外研究援助	1 件 20 万円以内 10 件：2,000,000	2,000,000	
⑥ 学生対策	新入生歓迎会：800,000(T シャツ含む) M4 激励会：600,000 国試激励会：600,000	2,000,000	
⑦ 白衣贈与	BSL 用長衣、 短衣：10,000×100 人 = 1,000,000	1,000,000	夏期セミナー 130 万円を含む
⑧ 国試対策	国試対策費：2,500,000 国試応援費：200,000	2,700,000	
⑨ 支部祝儀贈与	支部発足：50,000×1=50,000 支部会参加：30,000×6=180,000	230,000	
⑩ 学生行事援助	学生行事援助：300,000 烏帽子会賞：300,000 学生行事への参加：100,000	700,000	
⑪ 慶弔贈与	祝儀、弔慰金、見舞金ほか： 23,000×5=115,000	115,000	
⑫ グッズ作製	グッズ作製（ネクタイピン）	500,000	
⑬ 会員名簿の発行	印刷費：1,200×3,800 部 =4,560,000 封筒：20×4,000+10×8,000=160,000 送 料：245×2,800=686,000 調査費：80×2,700+100×1,900=406,000	5,812,000	
⑭ パニックマニュアルの発行	（今年度は実施せず）	0	次回は平成 21 年 2 月発行
⑮ 奨学金緊急貸与	緊急時における奨学金の貸与	1,000,000	
合 計		22,021,000	

平成 19 年度収入支出予算

区分	科目	18 予算	19 予算	19 年度予算摘要	19 予算-18 予算
収 入	繰越金	8,000,000	6,880,000		▲ 1,120,000
	会費収入	24,620,000	24,681,000	入会費:4,735,000 学年会費:4,455,000 年会費:15,335,000 準年会費:156,000	61,000
	協賛金収入	0	1,800,000	名簿広告掲載料料: 30,000×60 業者 =1,800,000	1,800,000
	手数料収入	650,000	656,000	集金手数料ほか	6,000
	雑収入	430,000	322,000	グッズ売上ほか	▲ 108,000
	預り金収入	134,000	171,000	給与源泉徴収税	37,000
	積立金繰入	0	4,000,000	刊行物積立金より会員名簿作成費として	4,000,000
	仮受金	2,000,000	1,000,000	代理店勘定運転資金として同窓会勘定より仮受	▲ 1,000,000
	借入金	0	2,000,000	事業積立金より運転資金として一時借入	2,000,000
合計	35,834,000	41,510,000		5,676,000	
支 出	給与	4,102,000	4,100,000	職員 1 名、パート 2 名・前年度実績	▲ 2,000
	旅費	2,020,000	2,020,000	役員旅費:1,470,000 通勤旅費:200,000 その他:350,000	0
	事務用品費	360,000	360,000		0
	印刷費	2,032,000	6,700,000	会報:1,620,000 名簿:4,720,000 その他:360,000	4,668,000
	通信運搬費	1,641,000	2,632,000	電信電話:96,000 会報:744,000 名簿:1,092,000 切手書書ほか:700,000	991,000
	設備工事費	310,000	310,000	維持契約:210,000 その他:100,000	0
	什器備品費	200,000	200,000		0
	事業費	12,600,000	13,845,000	事業計画参照	1,245,000
	会議費	1,600,000	1,600,000	理事会、会長懇話会:600,000 評議員会:500,000 各種委員会:200,000 その他:300,000	0
	公租公課	70,000	70,000	法人県市民税:70,000	0
	雑費	3,532,000	3,532,000	税理士報酬:32,000 渉外費:2,000,000 寄付金:1,000,000 その他:500,000	0
	預り金支出	134,000	165,000	給与源泉徴収税	31,000
	引当金積立	2,000,000	0		▲ 2,000,000
	仮渡金	2,000,000	1,000,000	代理店勘定運転資金として同窓会勘定より仮渡	▲ 1,000,000
	借入金返却	0	2,000,000	事業積立金へ	2,000,000
	予備費	3,233,000	2,976,000		▲ 257,000
合計	35,834,000	41,510,000		5,676,000	
収支差引	0	0		0	

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）

〔平成 19.4.2～19.10.1〕

区分	所 属	資 格	氏 名	発 令 日	摘 要
退 職	病 理 学	講 師	岡 村 憲 子	19. 6.30	
	筑 紫 小 児 科	准 教 授	濱 本 邦 洋	19. 9.30	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講 師	山 本 聡	19. 9.30	
	神 經 内 科 学	講 師	中 野 正 剛	19. 9.30	
昇 格	筑 紫 小 児 科	教 授	小 川 厚 ⑥	19.10. 1	
	筑 紫 外 科	教 授	前 川 隆 文 ②	19.10. 1	
採 用	臨 床 検 査 医 学	講 師	大 久 保 久 美 子	19.10. 1	
	腎臓・膠原病内科学	准 教 授	中 嶋 衡	19.10. 1	
休 職	呼 吸 器 内 科 学	准 教 授	藤 田 昌 樹	19.10. 1	
	小 児 科 学	講 師	新 居 見 和 彦 ⑤	19.10. 1	
	形 成 外 科	講 師	宮 本 洋	19.10. 1	

医局長・医長名簿

(○内の数字は卒業回、筑紫病院の※印は内科・消化器科の代表医長)

平成 19 年 10 月現在

	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
[福 大 病 院]			
腫瘍・血液・感染症内科	高 田 徹	石 塚 賢 治	高 松 泰
内 分 泌・糖 尿 病 内 科		安 西 慶 三	緒 方 秀 昭
循 環 器 科	三 浦 伸一郎⑪	西 川 宏 明⑱	松 本 直 通⑭
消 化 器 科	前 田 和 弘③	西 村 宏 達⑰	江 口 浩 一
腎 臓・膠 原 病 内 科	小 河 原 悟⑦	石 村 春 令⑳	安 部 泰 弘⑳
呼 吸 器 内 科	荒 牧 竜 太 郎	松 本 武 格⑳	豊 島 秀 夫⑧
神 經 内 科・健 康 管 理 科	馬 場 康 彦⑳	井 上 展 聡⑳	合 馬 慎 二 (神 經)
〃			宗 清 正 紀 (健 管)
精 神 神 經 科	永 井 宏⑳	正 化 孝	藤 内 栄 太⑳
〃 (ディケア)			平 川 清 人
小 児 科	安 元 佐 和⑦	井 上 貴 仁⑮	柳 井 文 男
消 化 器 外 科	篠 原 徹 雄⑫	松 本 久 伸	山 内 靖
呼 吸 器・乳 腺 内 分 泌・小 児 外 科	吉 永 康 照⑪	平 塚 昌 文⑬	上 野 孝 男
整 形 外 科	佐 伯 和 彦⑮	伊 崎 輝 昌	金 澤 和 貴
形 成 外 科	小 坂 正 明	牧 野 太 郎⑵	木 下 浩 二
脳 神 經 外 科	阪 元 政 三 郎⑧	小 松 文 成	池 田 耕 一⑭
心 臓 血 管 外 科	岩 橋 英 彦⑰	林 田 好 生⑳	竹 内 一 馬⑳
皮 膚 科	高 橋 聡⑳	佐 藤 典 子	伊 藤 宏 太 郎⑳
泌 尿 器 科	松 岡 弘 文⑧	入 江 慎 一 郎⑰	田 丸 俊 三⑨
産 婦 人 科	辻 岡 寛⑮	小 濱 大 嗣⑮ (3 東)	吉 里 俊 幸
〃		堀 内 新 司⑱ (3 北)	
眼 科	尾 崎 弘 明	小 沢 昌 彦	近 藤 寛 之
耳 鼻 咽 喉 科	柴 田 憲 助⑨	末 田 尚 之⑰	山 野 貴 史
放 射 線 科	高 野 浩 一⑭	浦 川 博 史⑮	東 原 秀 行⑥
麻 酔 科	香 取 清⑬	廣 田 一 紀	平 田 和 彦⑫
歯 科 口 腔 外 科	梅 本 丈 二	助 臺 美 帆	池 山 尚 岐
病 理 部	久 野 敏		
臨 床 検 査 部	明 比 祐 子		
輸 血 部	熊 川 み どり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	益 崎 隆 雄⑪	喜 多 村 泰 輔⑱	
総 合 周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー		森 聡 子⑬	
総 診 療 部	森 戸 夏 美⑱		柏 木 謙 一 郎
[筑 紫 病 院]			
筑 紫 病 院 (総 医 局 長)	山 之 内 良 雄⑦		
内 科 第 一	山 之 内 良 雄⑦	新 村 英 也⑱	土 屋 芳 弘⑬
内 科 第 二	久 良 木 隆 繁	飯 野 研 三	※三 原 宏 之⑨
消 化 器 科・内 視 鏡 部	※平 井 郁 仁⑭	高 木 靖 寛⑮	長 浜 孝⑰
小 児 科	喜 多 山 昇⑧	深 町 滋⑱	喜 多 山 昇⑧
外 科	関 克 典⑱	永 川 祐 二⑲	成 富 一 哉⑱
整 形 外 科	張 敬 範⑫	藤 澤 基 之⑲	秋 吉 祐 一 郎
脳 神 經 外 科	見 玉 智 信	堤 正 則	相 川 博
泌 尿 器 科	石 井 龍⑤	平 浩 志⑮	石 井 龍⑤
眼 科	吉 田 茂 生	吉 田 茂 生	吉 田 茂 生
耳 鼻 咽 喉 科	宮 城 司 道⑨	福 崎 勉⑳	一 番 ヶ 瀬 崇⑲
放 射 線 科	中 島 力 哉⑭		
麻 酔 科	堀 浩 一 郎⑬		
病 理 部	原 岡 誠 司		
救 急 部	紙 谷 孝 則⑮		

事務局連絡

- ◆会員名簿第9号編集作業は目下粛々と進行中です。お願いしていた名簿資料調査票未返送の方は大至急お送り下さい。
- ◆最近、名簿作製を騙る不審な電話が大横行です。同窓会、医局、大学の総務課や学生課・・・いろんな人になりすまし（私の名前も使われているようです。）言葉巧みに皆さんの勤務先、住所等を聞き出そうとしています。烏帽子会の場合、よっぽど懇意で無い限り電話でこの種の事をお尋ねする事はありません。ご注意下さい。
- ◆会員の方からのご投稿をお待ちしています。趣味の話、ご苦勞談、肩の凝らない良い話、医学部開設36周年、正会員数3000名の所帯ともなれば気になる方のご消息も聞きたいはず。会報を懐かしい便りを運ぶ郵便箱にして下さい。

(文責：池田)

編

集

後

記

今年も猛暑と残暑の中、何とか乗り切った。しかし、手帳を見ると今年もあと二か月しか残っていないことにあらためて気づき、俄然焦りが湧いてきた。秋の風情を楽しむゆとりもなく目の前の仕事をひとつひとつ処理してゆくしかない。毎日が退屈だった学生時代が懐かしい。烏帽子会会報を読むと当時の情景が脳裏によみがえり、少しの間だが気持ちが和む。

前川隆文先生、小川厚先生、福岡大学筑紫病院の教授ご就任、まことにおめでとうございます。今永一成先生、長年にわたり私たちにご指導をたまわり、こころより感謝申し上げます。大平明弘先生、島根大学の副医学部長ご就任、おめでとうございます。ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

— 烏帽子会グッズ案内 —



診察衣
価格：下記の通り



ケーシー型
価格：下記の通り



Tシャツ
価格：1,500円(送料込み)



ネクタイ
価格：1万円(送料込み)



スカーフ
価格：1万円(送料込み)

白衣サイズ (cm) と価格

区分	サイズ	男性用					女性用					価格 (学生用、OB用共通)
		着丈	バスト	肩幅	袖丈	半袖	着丈	バスト	肩幅	袖丈	半袖	
診察衣型	S	97	106	44	56	24	88	100	38	51	20	長袖4,300円 半袖4,200円 (ネーム入れ100円加算) 宅送希望の方は別途宅送料
	M	100	110	45	57	25	91	104	39	52	21	
	L	105	114	46	58	26	96	108	40	53	22	
	LL	105	118	47	59	27	101	112	42	54	23	
	3L	105	124	49	59	27	101	118	44	54	23	
KC型	S	72	100	42		24	67	94	38		20	半袖のみ4,300円 (ネーム入れ100円加算) 宅送希望の方は別途宅送料
	M	74	104	44		25	69	98	39		21	
	L	76	108	46		26	71	102	40		22	
	LL	78	114	48		27	74	106	42		23	
	3L	78	120	50		27	74	112	44		23	

*宅送料は九州管内の場合10着まで500円。管外は少々高くなります。

購入申込

購入ご希望の方は申込書を事務局に申し込むか、又はホームページから申込用紙をダウンロードしてファックスでお申し込み下さい。お支払いは商品に同封の振込用紙をご利用下さい。

〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1福岡大学医学部同窓会
TEL:092-865-6353 FAX:092-865-9484 E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp
ホームページアドレス:<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/eboshi/>

烏帽子会ホームページ



- トップ
- 新着情報
- 烏帽子会紹介
- フォトギャラリー
- 烏帽子会グッズ
- 外来担当医表
- ダウンロード
- リンク集
- お問い合わせ

<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/eboshi/>

一度、ホームページを覗いてみて下さい。

烏帽子会会報第43号

発行日 平成19年11月15日

発行人 高木忠博

編集人 大慈弥裕之

発行所 〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話 092-865-6353 (直通)

092-801-1011 (代表)

内線 3032

FAX 092-865-9484

E-mail: eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷株式会社

福岡市中央区長浜2-1-30

電話 092-711-7741

FAX 092-711-7901